



日本鉄道保存協会総会 2024

2024（令和6）年10月18日（金）～19日（土）
高知県馬路村



魚梁瀬森林鉄道 酒井式 C16 型ガソリン機関車

ごあいさつ

日本鉄道保存協会は平成3年（1991）に設立され、今年2024年（令和6年）で33年目を迎えます。当初は7団体の加盟でしたが、今日60団体を越える正会員や賛助会員、さらに個人会員である友の会ができるなどし、組織は拡大いたしました。これもひとえに会員皆さまの格別なご支援、ご協力の賜物であると信じて止みません。

設立当初からご指導を賜りました青木栄一先生、小池 滋先生、松澤正二先生も故人となられましたが、先生方の教えを受け継いで活動を続けてまいりました。心より、感謝とお礼を申し上げる次第です。

また、トラストトレインの保全活用に端を発し、同協会を設立し、代表幹事団体と事務局を受け持って頂きました公益財団法人日本ナショナルトラスト、さらにその後は、菅建彦様のご英断で引き継いでくださいました交通博物館（公益財団法人交通文化振興財団）、公益財団法人交通協力会に改めてお礼申し上げます。おかげさまで活動は順調に進んでおります。

さて、今年の総会・見学会は馬路村・魚梁瀬（高知県）であります。当協会の設立初期から正会員として加盟され、活躍されてこられた清岡博基様とは長いお付き合いになります。昨年11月3日より開催されました「全国森林鉄道サミット」に参加させていただき旧交を温め、また新たな活動へ向けて意気投合いたしました。そのご縁もあり、馬路村・魚梁瀬での総会・見学会開催の運びとなりました。

ご存知のとおり、魚梁瀬杉は秋田杉、吉野杉とともに、我が国の3大美林と呼ばれ、馬路村は林業が栄え、古くからその搬出に森林鉄道が活躍しておりました。そして、今も地元の皆様のお力でその雄姿に接することができます。しかも、動態保存であります。大いに賞賛いたしたく存じます。

また、地場産品の「ゆず」は、地域活性化の切り札として地元経済発展におおいに寄与いたしております。「森林鉄道とゆず」は将来に亘る豊かな地域づくりの核となることでしょう。

私たちも活気溢れる馬路村の活動に触れ、明日の鉄道遺産の保存活用や地域活性化を考えてみましょう。

開催にあたり、馬路村、馬路村農協、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会に心よりお礼申し上げます。

日本鉄道保存協会代表幹事団体
公益社団法人横浜歴史資産調査会
常務理事 米山淳一

日本鉄道保存協会

2024年度総会・講演会・見学会プログラム

日時： 2024年（令和6年） 10月18日（金）～19日（土）

開催地：高知県馬路村

10月18日（金） 集合

会場 馬路村集会センター「うまなび」「うまじ温泉」

受付 「うまなび」 14：30～

15：00 総会開始

主催者挨拶	交通協力会顧問・日本鉄道保存協会顧問	菅 建彦
代表幹事団体挨拶	公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事	米山淳一
来賓挨拶	馬路村長	山崎 出

16：15 講演会開始

開催地報告（1）「馬路村の紹介」 ゆずロードへ

馬路村農業協同組合前組合長 東谷望史

開催地報告（2）「森林鉄道遺産を生かした地域づくり」

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局長 中嶋健次

開催地報告（3）「馬路村魚梁瀬地区の活性化に向けて

集落活動センターやなせ 集落支援員 日浦数弘

17：45 総括・閉会挨拶 日本鉄道保存協会顧問 花上嘉成

※総会・講演会終了後、うまじ温泉に移動

19：00 交流会開始（うまじ温泉）

10月19日(土)

9:00 うまじ温泉出発(バス2台)

10:00 魚梁瀬丸山公園到着
魚梁瀬森林鉄道体験乗車
保存機関車見学

(昼食) 杉の家

13:00 魚梁瀬丸山公園出発

14:00頃 馬路村到着
※車でご参加の方はここで解散

15:00 田野駅屋道の駅到着 解散
※ごめんなはり線高知行
田野駅発 16:09

日本鉄道保存協会(RPSJ)2024年度総会 出欠一覧表

2024年10月7日 現在

資格	所 属		役 職	氏 名	総会	交流会	宿泊	見学会
顧問				花上 嘉成	◎	○	○	○
顧問	公益財団法人 交通協力会			菅 建彦	◎	○	○	○
顧問				大島登志彦	△	△	△	△
顧問				辻 聡	◎	○	○	○
顧問				高橋 一字	△	△	△	△
正会員	遠軽町	丸瀬布総合支所		千葉 正義	◎	○	○	○
正会員	陸別町商工会(ふるさと銀河線りくべつ鉄道)	商工会議所		杉本 武勝	◎	○	○	○
正会員	三笠市	商工観光課		中老田 悠丞	△	△	△	△
正会員	三菱大夕張鉄道保存会		事務局	今井 一郎	△	△	△	△
正会員	NPO法人オホーツク鉄道歴史保存会		理事長	長南 進一	△	△	△	△
正会員	北海道旅客鉄道株式会社	運輸部運用課		木立 智英	△	△	△	△
正会員	えべつ1/1会			近藤 剛	◎	—	—	—
正会員	有島記念館		学芸員	伊藤 大介	△	△	△	△
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会			小川 清之	△	△	△	△
正会員	七百レールファンクラブ			野田 悟	△	△	△	△
正会員	小坂鉄道保存会			吉野 幸裕	◎	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会			大谷 清次	◎	○	○	○
正会員	栗原市(くりはら田園鉄道公園)	田園観光課		菊地 壮	△	△	△	△
正会員	東北鉄道資料保存協議会	みちのく鉄道応援団		日下 敏彦	△	△	△	△
正会員	真岡線SL運行協議会			浅川 健	△	△	△	△
正会員	一般社団法人 あしおトロッコ館			須永 秀夫	◎	○	○	○
正会員	鹿島鉄道保存会		代表	加藤 三千尋	△	△	△	△
正会員	銚田駅保存会			川津 重夫	△	△	△	△
正会員	ユメノバ(レールパーク)	テーマパーク・観光部門統括		野口 稔夫	◎	○	—	—
正会員	一般財団法人碓氷峠交流記念財団(碓氷峠鉄道文化むら)		事務局長	小崎 正人	△	△	△	△
正会員	一般社団法人電鉄文化保存協会		代表理事	岩崎 直彦	△	△	△	△
正会員	日本工業大学		技術担当	五月女 浩樹	△	△	△	△
正会員	秩父鉄道株式会社	技術部車両課		木村 壮史	△	△	△	△
正会員	東日本旅客鉄道株式会社	総務部企画グループ		大野 啓介	△	△	△	△
正会員	公益財団法人 東日本鉄道文化財団	学芸部		岩見 隆則	◎	—	—	—
正会員	一般財団法人 東武博物館		管理課長	伊藤 美千夫	◎	○	○	○
正会員	一般財団法人 東武博物館			浜田 晋一	◎	○	○	○
正会員	公益財団法人 日本ナショナルトラスト	事業課		大久保 優美	△	△	△	△
正会員	公益財団法人 交通協力会		顧問	菅 建彦	△	△	△	△
正会員	清瀬市		経営政策部参事	木原 雄嗣	△	△	△	△
正会員	横浜市電1156号保存会			齋藤 大起	△	△	△	△
正会員	公益社団法人横浜歴史資産調査会		会長	古賀 学	◎	○	○	○
正会員	公益社団法人横浜歴史資産調査会			米山 淳一	◎	○	○	○
正会員	新潟市新津鉄道資料館	新津鉄道資料館		加藤 裕之	△	△	△	△
正会員	上松町(赤沢森林鉄道)			織田 藍	△	△	△	△
正会員	信濃追分駅舎・可惜(あた)ら会		会長	那須 由莉	△	△	△	△
正会員	足久保鐵道株式会社		代表取締役	玉井 宏政	△	△	△	△
正会員	大井川鐵道株式会社		鉄道部長	坂本 光司	△	△	△	△
正会員	東海旅客鐵道株式会社(リニア・鉄道館)	運営企画		影山 卓己	◎	—	—	—
正会員	公益財団法人 明治村			近藤 雅隆	△	△	△	△
正会員	NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会		理事長	村上 真善	◎	○	○	○
正会員	NPO法人 神岡・町づくりネットワーク		事務局	田口 由加子	△	△	△	△
正会員	公益社団法人長浜観光協会(長浜鉄道スクエア)			高木 祥次	◎	○	○	○
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連絡協議会	南越前町役場		山本 啓博	◎	○	○	○
正会員	NPO法人 北国鉄道管理局		代表理事	岩谷 淳平	△	△	△	△
正会員	NPO法人貨物鉄道博物館		常務理事	南野 哲志	△	△	△	△
正会員	西日本旅客鐵道株式会社	広報部鉄道文化推進室		川口 穂高	△	△	△	△
正会員	公益財団法人交通文化振興財団		交通資料センター長	川端 英登	△	△	△	△
正会員	加悦SL広場(宮津海陸運輸株式会社)		管理課長	柴田 万喜也	△	△	△	△
正会員	NPO法人加悦鐵道保存会		理事長	上野山博己	△	△	△	△
正会員	片上鐵道保存会		代表幹事	甲本 康則	△	△	△	△
正会員	若桜駅を元気にする会			北内 泰久	◎	○	○	○
正会員	NPO法人 市民文化財ネットワーク鳥取		事務局長	太田 縁	△	△	△	△
正会員	山口線SL運行対策協議会	観光プロジェクト推進室		山本 康広	△	△	△	△
正会員	西条市(鉄道歴史パーク in SAIJO)			加藤 圭哉	◎	○	○	○
正会員	馬路村(魚梁瀬森林鉄道)	やなせ森林鉄道運営委員会		山内 忍	◎	○	—	—
正会員	宇高連絡船愛好会		代表	三村 卓也	◎	○	○	○

資 格	所 属		役 職	氏 名	総会	交流会	宿泊	見学会
正会員	九州旅客鉄道株式会社	広報部		中山 暁仁				
正会員	北九州線車輛保存会		代表	手嶋 康人				
賛助会員	株式会社鉄道ジャーナル社			伊藤 丈志				
賛助会員	日本鉄道写真作家協会			長根 広和	◎	○	○	○
賛助会員	日本鉄道写真作家協会			松本 正敏	◎	○	○	○
賛助会員	有限会社レイルマン・フォト・オフィス		代表	山崎 友也				
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム			伊藤 博康	◎	○	○	○
賛助会員	株式会社井門コーポレーション			丹下 昭英	◎	○	○	○
賛助会員	株式会社東海汽缶		取締役業務統括部長	石川 寛之				
賛助会員	株式会社ヤマネ		技術部課長	高見 浩	◎	○	○	○
友の会				赤羽 誠	◎	○	○	○
友の会				阿部 豊	◎	○	○	○
友の会				岩野 弘一	◎	○	○	○
友の会				加藤 圭哉				
友の会				河合 桃子	◎	○	○	○
友の会				倉繁 聡				
友の会				柴山 純一				
友の会				関田 克孝				
友の会				関本 康人				
友の会				橘 秀幸				
友の会				田中 光一	◎	○	—	○
友の会				田中 浩史	◎	○	○	○
友の会				長野 光芳				
友の会				西尾 恵介	◎	○	○	○
友の会				野田 知毅				
友の会				水野 彌彦				
友の会				名取 紀之				
友の会				須藤 哲也	—	—	—	○
友の会				畠山 明久	◎	○	○	○
友の会				神崎 史恵	◎	○	○	○
友の会				安倍 敏陽				
友の会				杉崎 行恭				
友の会				佐藤 卓司				
友の会				村上 旭				
友の会		寒川鉄道保存会		塚本 健太				
友の会				瀬端 浩之				
友の会				田口 由加子	◎	○	○	○
友の会				神野 清司				
オブザーバー				西村 海香	○	○	○	○
オブザーバー				大内 渉	○	○	○	○
オブザーバー				日暮 成一	○	○	○	○
オブザーバー				松本 新一	—	○	○	○
オブザーバー				山崎 朗	○	○	○	○
オブザーバー	株式会社 ヤシマキザイ			飯塚 一明	○	○	○	○
オブザーバー				舩本 成行	○	○	—	—
オブザーバー	津軽鉄道	総務課		山本 夏美				
オブザーバー	しなの鉄道(株)			唐澤 貴之				
オブザーバー				上村 宗貴				
オブザーバー				山崎 朗				
オブザーバー	王寺町役場	地域交流課文化資源活用係		岡島 永昌				
オブザーバー	四国旅客鉄道株式会社			長戸 正二				
オブザーバー	特定非営利活動法人語りつぐ青函連絡船の会			高橋 撰				
オブザーバー				笹沼 健史				
オブザーバー	前橋工科大学			臼井 敬太郎				
オブザーバー	青山学院大学			高嶋 修一				
オブザーバー				尾谷 恒治		○	○	—
事務局	日本鉄道保存協会		事務局長	米山 淳一				
事務局	日本鉄道保存協会		事務局	河合 桃子				
事務局	日本鉄道保存協会		事務局	田中 光一				
事務局	日本鉄道保存協会		事務局	赤羽 誠				

日本鉄道保存協会 会員名簿

2024.10.02.現在

<凡 例>

番 号	団 体 名 (施設名)
〒	団体所在地 / 連絡先住所
	電話番号 / Fax 番号
	団体代表者名
	RPSJ 担当者名 (☆)

正 会 員

- 01 遠軽町 (旧丸瀬布町)
〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所 産業課
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128

町 長 佐々木修一
係 長 上戸 智仁 (☆)
- 02 陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)
〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791

会 長 石橋 強
事務局長 杉本 武勝 (☆)
- 03 三笠市 (三笠鉄道村)
〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所 経済建設部商工観光課 商工観光係
Tel 01267-2-3997 Fax 01267-2-7880

市 長 西城 賢策
主 事 小笠原玲夢 (☆)
- 04 三菱大夕張鉄道保存会
〒069-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel 011-387-4783

事務局長 今井 一郎 (☆)
- 05 NPO 法人オホーツク鉄道歴史保存会
〒090-1817 北見市常盤町 2-4-53
Tel 090-9524-9315

理事長 長南 進一 (☆)
- 06 北海道旅客鉄道株式会社
〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786

代表取締役社長 綿貫 泰之
運輸部運用課 木立 智英 (☆)

- 07 えべつ1/1会
〒067-0012 江別市2条2丁目6 旧北陸銀行内
Tel 090-9967-1971
- 会長 石田武史 (☆)
- 08 有島記念館 (ニセコ鉄道遺産群)
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島 57
Tel 0136-44-3245 Fax 0136-55-8484
- 館長 寺嶋 弘道
学芸員 伊藤大介 (☆)
- 09 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会
〒133-0051 江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel 03-3672-7709
- 代表理事 星野 正博 (☆)
- 10 七百レールファンクラブ (七百鉄道記念館)
〒336-0926 さいたま市緑区東浦和 7-4-12-103
Tel 070-6528-2629
- 会 長 斎藤 正
副会長 野田 悟 (☆)
- 11 小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)
〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク気付
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002
- 代 表 千葉 裕之
総務企画局長 亀沢 修 (☆)
- 12 栗原市 (くりはら田園鉄道公園)
〒987-2252 宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市田園観光課
Tel 0228-22-1151 Fax 0228-22-0315
- 市 長 佐藤 智
田園観光課 菊地 壮 (☆)
- 13 東北鉄道資料保存協議会 (みちのく鉄道応援団)
〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3
Tel 090-6854-9258 Fax 022-248-9258
- 代表幹事 佐藤 茂 (☆)
- 14 真岡線 SL 運行協議会
〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285-82-9152
- 会 長 (真岡市長) 石坂 真一
事務局長 谷口 栄治
担 当 浅川 健 (☆)

- 15 一般社団法人 あしおトロッコ館
〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax 0288-93-0189
総務担当 岡本 憲之 (☆)
- 16 鹿島鉄道保存会 (鹿島鉄道記念館)
〒332-0003 川口市東領家 4-3-14
株式会社バレア
Tel 048-223-5088 Fax 048-278-6067
代 表 加藤三千尋 (☆)
- 17 銚田駅保存会
〒310-0001 水戸市上河内町 162
Tel・Fax 029-239-6735
理 事 川津 重夫 (☆)
- 18 ユメノバ (レールパーク)
〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
広沢商事株式会社内
Tel 0296-48-7417 Fax 0296-48-7419
代 表 廣澤 清
担 当 野口 稔夫 (☆)
- 19 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 (碓氷峠鉄道文化むら)
〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111
代表理事 富安 良司
館 長 山岸由美子
事務局長 小崎 正人 (☆)
- 20 一般社団法人電鉄文化保存会
〒152-0023 目黒区八雲 3-4-9
代 表 岩崎 直彦 (☆)
- 21 日本工業大学 (工業技術博物館)
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570
学 長 竹内 貞雄
館 長 清水 伸二
技 術 五月女浩樹 (☆)
- 22 秩父鉄道株式会社
〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551
代表取締役社長 牧野 英伸
技術部車両課 木村 壮史 (☆)

- 23 東日本旅客鉄道株式会社
〒151-8578 渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352
- 代表取締役社長 喜勢 陽一
総務・法務戦略部 大野 啓介 (☆)
- 24 公益財団法人 東日本鉄道文化財団
〒330-0852 さいたま市大宮区大成 3-47 鉄道博物館
Tel 048-651-0088 Fax 048-651-0570
- 会 長 清野 智
学芸部 五十嵐健一 (☆)
- 25 一般財団法人 東武博物館
〒131-0032 墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814
- 理事長 三輪 裕章
専務理事・館長 山田 智則
管理課長 伊藤美千夫 (☆)
- 26 公益財団法人 日本ナショナルトラスト
〒102-0083 千代田区麴町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190
- 会 長 安富 正文
事業課 大久保優美 (☆)
- 27 公益財団法人 交通協力会
〒100-0005 千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903
Tel 03-6269-9808 Fax 03-6269-9809
- 顧 問 菅 建彦 (☆)
- 28 清瀬市
〒204-8511 清瀬市中里 5-842
Tel 042-492-5111 Fax 042-492-2415
- 市 長 澁谷 桂司
経営政策部 木原 雄嗣 (☆)
- 29 横浜市電 1156 号保存会
〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部
Tel 090-9015-3707
- 代 表 齊藤 大起 (☆)
- 30 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)
〒231-8445 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405
Tel 045-651-1730
- 会 長 古賀 学
常務理事 米山 淳一 (☆)

- 31 新潟市新津鉄道資料館
〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課 新津鉄道資料館
Tel 0250-24-5700 Fax 0250-25-7808
- 館 長 高山 栄一
副館長 加藤 裕之 (☆)
- 32 上松町 (赤沢森林鉄道)
〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-4804 Fax 0264-52-1038
- 町 長 大屋 誠
商工観光係 織田 藍 (☆)
- 33 信濃追分駅舎・可惜 (あたら) 会
長野県軽井沢町追分
Tel 090-7704-1918 (河合☆)
- 代表 那須 由莉
担当 河合 桃子 (☆)
- 34 足久保鐵道株式会社
〒420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel 054-207-7444
- 代表取締役 玉井 宏政 (☆)
- 35 大井川鐵道株式会社
〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel 0547-45-4111 Fax 0547-45-4115
- 代表取締役社長 鈴木 肇
鐵道部長 坂本 光司 (☆)
- 36 東海旅客鐵道株式会社 (リニア・鐵道館)
〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2 リニア・鐵道館
- Tel 052-389-6100 Fax 052-389-6101
- 代表取締役社長 丹羽 俊介
館 長 岡部 仁
運営企画 加藤 清隆 (☆)
- 37 公益財団法人 明治村 (博物館明治村)
〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地
Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358
- 館 長 中川 武
主 任 近藤 雅隆 (☆)

38 NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会
〒463-0032 名古屋市守山区白山 1-708
Tel 090-4860-4664

理事長 村上 真善 (☆)

39 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク
〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2
Tel 090-2454-1506 Fax 0578-82-6677

理事長 鈴木 進悟
レールマウンテン
バイク事務局 田口由加子 (☆)

40 公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)
〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel 0749-63-4091 Fax 0749-64-0396

館 長 今井 克美
主 査 梅園いつ子 (☆)

41 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会
〒914-8501 福井県敦賀市中央町 2-1-1
Tel 0770-22-8128 Fax 0770-22-8184

事務局 (南越前町) 山本 啓博 (☆)

42 NPO 法人 貨物鉄道博物館
〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142

館 長 伊藤 則人
常務理事 南野 哲志 (☆)

43 西日本旅客鉄道株式会社
〒530-8341 大阪市北区芝田 2-4-24
Tel 06-6375-2176 Fax 06-6376-6053

代表取締役社長 長谷川一明
鉄道文化推進室 川口 穂高 (☆)

44 公益財団法人 交通文化振興財団
〒531-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-26 天神第一ビル 1004
Tel 06-6309-5113 Fax 06-6309-5114

理事長 長谷川一明
専務理事 前田 昌裕
交通調査センター長 川端 英登 (☆)

45 NPO 法人 加悦鐵道保存会
〒629-2403 京都府与謝野町加悦 433 旧加悦鐵道加悦駅舎内
Tel&Fax 0772-43-0232

理事長 上野山博己 (☆)

- 46 片上鉄道保存会
〒708-0001 岡山県津山市小原 149-5
Tel 090-7896-4858
- 代表幹事 甲本 康則 (☆)
- 47 若桜駅を元気にする会
〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場企画政策課
Tel 0858-82-2231 Fax 0858-82-0134
- 会 長 丹松 正信
事務局 谷本 剛
事務局 北内 泰久 (☆)
- 48 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取
〒680-0022 鳥取市西町 1-106
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103
- 理事長 渡辺 一正
事務局長 太田 縁 (☆)
- 49 山口線 SL 運行対策協議会
〒753-8501 山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部 観光プロジェクト推進室
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179
- 会 長 三坂 啓司
観光プロモーション推進室 山本 康幸 (☆)
- 50 西条市（鉄道歴史パーク in SAIJO）
〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164
Tel 0897-56-5151 Fax 0897-52-1200
- 市 長 玉井 敏久
観光振興課 能智 泰良 (☆)
- 51 馬路村（魚梁瀬森林鉄道）
〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鉄道運営委員会
Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208
- 村 長 山崎 出
魚梁瀬支所 山内 忍 (☆)
- 52 宇高連絡船愛好會
〒706-0011 岡山県玉野市宇野 5-21-13
Tel 0863-32-4081
- 代 表 三村 卓也 (☆)

53 九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21

Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898

代表取締役社長
広報部

古宮 洋二
中山 暁仁 (☆)

54 北九州線車輛保存会

〒818-0071 福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1

Tel 070-4171-7738

代 表

手嶋 康人 (☆)

賛助会員

01 株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072 千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F

Tel 03-3264-1891 Fax 03-3265-3597

編集長	宮原 正和
編集部	伊藤 丈志 (☆)

02 日本鉄道写真作家協会

〒188-0011 西東京市田無町 2-17-8-304

有限会社マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ内

会 長	長根 広和 (☆)
-----	-----------

03 有限会社 レイルマンフォトオフィス

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504

Tel 03-5212-2045 Fax 03-5212-2046

会 長	山崎 友也 (☆)
-----	-----------

04 有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57

Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310

代表取締役	伊藤 博康 (☆)
-------	-----------

05 株式会社井門コーポレーション

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-15-3

Tel 03-3450-11112 Fax 03-3450-2516

代表取締役社長	井門 義博 (☆)
---------	-----------

06 株式会社東海汽缶

〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎 970

Tel 054-346-6688 Fax 054-346-6430

取締役業務統括部長	石川 寛之 (☆)
-----------	-----------

07 株式会社ヤマネ

〒561-0831 大阪府豊中市庄内西町 5-1-76

Tel 06-6332-0157 Fax 06-6332-7086

代表取締役社長	林 圭祐
技術部課長	高見 浩 (☆)

友の会 会員 (五十音順)

赤羽 誠	阿部 豊	岩野 弘一	加藤 圭哉	河合 桃子
佐藤 卓司	倉繁 聡	柴山 純一	須藤 哲也	関田 克孝
関本 康人	瀬端 浩之	橘 秀幸	田中 光一	田中 浩史
塚本 健太	長野 光芳	名取 紀之	西尾 恵介	野田 知毅
畠山 明久	水野 彌彦	杉崎 行恭	神崎 史恵	安倍 敏陽

以 上

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正

団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://rikubetsu-railway.jimdo.com/>

Email r_rail@rikubetsu.ltd

☆ 気動車運転体験が出来る観光鉄道 ☆

【営業期間】(令和 6 年度)

4 月 2 7 日 (土) ~ 1 0 月 3 1 日 (木)

【気動車運転体験】

CR 7 0・7 5 型車両を運転士の指導を受けながら運転していただくコースです。

6 0 日前からホームページ又は電話にて予約受

(S コースは空きがあれば当日運転可能です！)

(S コース) 1 5 分程度の運転体験

料 金 : 2, 0 0 0 円

対 象 者 : 小学生以上

(L コース) 8 0 分程度で講習・出区点検・ポイント切替・運転体験等

料 金 : 2 0, 0 0 0 円

対 象 者 : 1 8 歳以上

(銀河コース) 8 0 分程度で構外運転 1.6km

料 金 : 3 0, 0 0 0 円

対 象 者 : 1 8 歳以上

条 件 : L コースの体験者、1 8 歳以上

(新銀河コース) 8 0 分程度で構外運転 2.8km

料 金 : 3 5, 0 0 0 円

条 件 : 銀河コースの体験者、1 8 歳以上

(分線コース) 8 0 分程度で構外運転 2.8km

料 金 : 6 0, 0 0 0 円

条 件 : 新銀河コースの体験者、1 8 歳以上



【気動車乗車体験】

CR 7 5 (銀河鉄道 9 9 9 列車) を使用して運行しております。

料金 : (構内) 中学生以上 3 0 0 円、

小学生 2 0 0 円

小学生未満無料

(構外) 中学生以上 5 0 0 円

小学生 3 0 0 円

小学生未満無料

【トロッコ体験】

足こぎ式トロッコで 1 周 4 0 0 m

料金 : 中学生以上 3 0 0 円・小学生 2 0 0 円

小学生未満無料

【りくべつ鉄道資料館の開館】

国鉄池北線-JR 北海道-北海道ちほく高原鉄道ふるさと銀河線(3セク)-廃線後復活した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」現在までの鉄道資料、保線具、エンジン等を展示。開館は、構外特別運行の日。

<令和 6 年度事業経過>

2 0 0 8 年 4 月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は今年開業後 1 6 年を迎えました。7 月 2 0 日 ~ 2 1 日に開催した「りくべつ鉄道まつり」では、前夜祭に花火列車の運行(車内でのプラネタリウム上映)と本祭では、旧陸別駅から旧分線駅までの一駅区間 5. 7 km を CR 車両 3 両連結して運行しました。2 0 1 0 年には「日本鉄道保存協会全国大会」が陸別町で開催され、2 0 1 2 年より 1. 6 km 構外に延伸した運転体験「銀河コース」を開設。翌年トロッコ周回路 4 0 0 m を設置し、同年 9 月に「銀河鉄道 9 9 9」の原作者「松本零士氏」を招いてメーテル号を特別運行！夜はりくべつ銀河の森天文台で講演とサイン会のコラボイベントを開催しました。2 0 2 0 年より、構外 2. 8 km までの「新銀河コース」翌年には陸別駅~分線駅まで 1 駅まるごと運転体験出来る「分線コース」5. 7 km を開設しました。今年度より「りくべつ鉄道資料館」を開館してます。



<一駅まるごと運転体験：分線コース>

<令和 6 年度イベント>

4 月 2 7 日(土) 令和 6 年度 営業開始

5 月 4 日(土) こどもの日 構外特別運行

7 月 2 1 日(日) りくべつ鉄道まつり 構外特別運行

7 月 2 8 日(日) 夏休み 構外特別運行

8 月 1 1 日(日) お盆休み 構外特別運行

9 月 1 5 日(日) 網走線開業記念 構外特別運行

1 0 月 1 3 日(日) 鉄道の日記念 構外特別運行

1 0 月 3 1 日(木) 令和 6 年度 営業最終日

団体名	北海道三笠市	〒068-2192 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 Tel : 01267-2-3997 Fax : 01267-2-7880 Email : kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL : http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145 北海道三笠市幌内町2丁目 三笠鉄道記念館 Tel : 01267-3-1123 Fax : 01267-2-6965 Email : tetsudoumura@s-304.com URL : https://mikasa-railway.com/

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和62年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・SL部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■SL運行（乗車1回300円）

※修理のため令和7年5月下旬頃まで運行休止

運行日………4月16日から

10月15日までの土・日・祝日

※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、

休館日を除き毎日運行。

土曜………12:00始発～16:00発最終

日曜・祝日……10:00始発～16:00発最終

※30分毎の発車です。

ただし、12:30発の便はありません。

■SL機関士運転体験

※SL修理のため令和7年5月下旬頃まで休止

三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分足らずのわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も850人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぼっぽレンジャー」が登場し、昔なつかしいどん菓子の実演、無料配布を行っています。また、大道芸人によるステージショーや縁日コーナー等で多くの子どもたちに楽しんでいただいています。

《今年のイベント日程》

・5月3日～5日

春の三笠鉄道村まつり

・8月10日～12日

夏の三笠鉄道村まつり

・10月5日、6日

秋の三笠鉄道村まつり

■教育旅行の受け入れ

毎年、三笠ジオパークの活動と連動し、教育旅行の受け入れを行っており、日本の近代化や北海道開拓を支え、幌内炭鉱から採掘された石炭を本州へ輸送するため、北海道で最初に敷設された幌内鉄道の歴史を多くの学生の皆さんに学んでいただきました。

受け入れ人数も着実に伸びてきており、更なる教育プログラムの推進に力を入れていきたいと考えております。

■その他

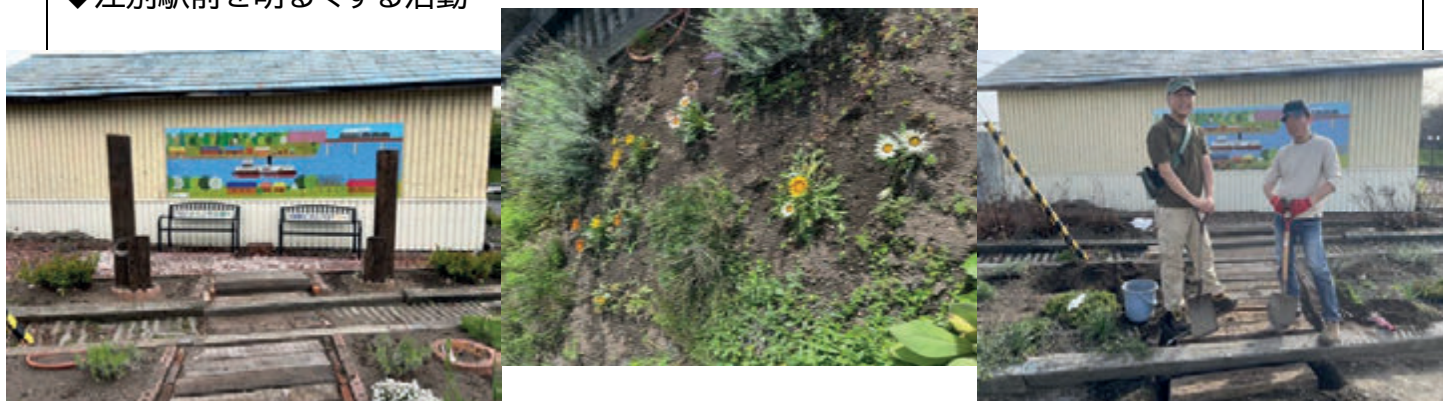
右記のQRコードより三笠鉄道村に関する様々な情報をご覧ください。



団体名	えべつ1／1会 (えべついちぶんのいちかい) 	〒067-0012 北海道江別市2条2丁目 旧北陸銀行内 Tel : 090-9967-1971 Fax : なし URL : X (旧 Twitter) @ebetetsu Email : 1bunno1kai@gmail.com 担当者 : 会長 石田武史
-----	--	---

えべつ1／1会は、市内の鉄道ファンを中心に結成され、江別の鉄道に関わる様々な活動に幅広く取り組みながら、地域の活性化に貢献することを目的とした団体です。江別の鉄道文化や歴史などを継承・保存していく市民の機運を高めるための活動を続け、蒸気機関車や鉄道の復元・運行をめざしています。

◆江別駅前を明るくする活動



今年は江別駅前広場の花壇のお手入れに合わせて、新しくベンチを設置しました。草花を眺めながら一休み。以前に設置したイラスト看板の前に座って写真が撮れるようになりました。

◆日本遺産「炭鉄港」の取り組み



以前から取り組みを進めている日本遺産「炭鉄港」は、2023年12月に江別市と日本鉄道保存協会様が日本遺産「炭鉄港」推進協議会への加入が正式に認められ、この6月には認定証が交付されました。今後も地域の歴史・鉄道資産を活かしたまちづくりを進めていきます。

団体名	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会	〒 039-2512 青森県上北郡七戸町笹田 5 4-2 Tel : 080-3201-4158 Fax : URL : http://www.ogaemon.com Email : 担当者：星野
-----	--------------------------------	---



青森県七戸町と野辺地町の間 20.9km を結んでいた南部縦貫鉄道の車輌と旧七戸駅構内を保存する活動を行っております。

鉄道営業は平成 9 年に休止、復活することなく平成 14 年に廃止となりました。

保存車輌はレールバスキハ 101・102 の 2 両、キハ 104 ディーゼルカー 1 両（元国鉄キハ 10）、機関車 3 両（D451、DC251、DB11）です。機関車 D451 以外の車輌は動態保存となっています。2023 年秋には貨車ト 404 が保存車輌に加わりました。

毎年ゴールデンウィークにはレールバスに体験乗車できるイベントを開催し、多くのみなさんに楽しんでいただいております。

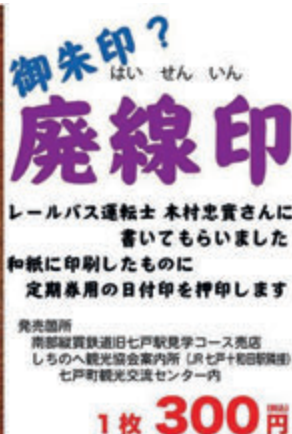
秋には夕暮れ撮影会と称して日中帯から日没後までライトアップを行い撮影会を開催しております。

毎週末の土日にはしちのへ観光協会のご協力のもと、七戸駅構内を公開しレールバスを見学実施しております。旧七戸駅構内では公開日にレールバスグッズを発売しており売上は保存活動に活用させていただいております。

現在、駅構内枕木の老朽化に伴い安全向上のため、ポイント部の更新と枕木の PC 化を順次進めております。



様々なグッズを販売中！ 利益は車輌や駅構内の整備に利用させていただいております。



団体名 七百レールファンクラブ

施設名 七百鉄道記念館

<https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815>

七百検修庫: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百レールファンクラブ会長自宅: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2

会長: 斎藤正

事務取扱方自宅: 〒336-0926

埼玉県さいたま市緑区東浦和4-23-4-101

氏名: 野田 悟

連絡先: 090-6568-2629 (開館時以外は通じません)

メール: shichihyakurfc@yahoo.co.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧: 七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧: 七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足

平成26年に旧: 七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入

平成27年 5月31日 「七百鉄道記念館」として第一回 一般公開を実施

その後、令和元年度までは春・秋2回の一般公開を行って参りましたが、令和2年度～3年度は新型コロナウイルスの影響で一般公開は見送りとさせて頂きました。

令和4年9月4日: 3年振りに一般公開を再開、昨年度は令和5年10月29日に開催

本年度は記念館周辺の草刈活動時の安全性向上を図るべく、会員及び地元の方に対して「刈払機取扱作業従事者安全衛生教育」講習を実施しました。

令和6年10月27日 一般公開を予定。



昨年10/29の
一般公開時
前照灯点灯



昨年10/29の
一般公開時に
展示した
復活駅名板



1/28に実施した刈払機講習会の様子
(於: 七百公民館)



本年は一般作業として
記念館収容時に破損していたキロポストの復元も行いました。
(左: 復元後、右: 収容時)

会員数も少ない状態ではありますが、今後も十和田観光電鉄線に関する歴史資料の保存と継承に引き続き活動して参りたいと考えております。

※ 個人連絡先(野田)

自宅: 048-876-0102

自宅PC: IZD01662@nifty.com

個人携帯: 090-2520-2629

個人携帯アドレス: satorunoda@docomo.ne.jp

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂鉄道レールパーク 気付）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古川20-9
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002



小坂町かぶきん

小坂鉄道レールパーク10周年！

“ブルートレインあけぼの” 宿泊営業再開へ

▼ 5月4日に宿泊営業が再開された
「ブルートレインあけぼの」の勇姿！



▲ 保存会員は車体磨きにも協力しました



▲ ときには枕木交換も…翌日は全身筋肉痛



▲ アカシアまつりに合わせて開催された「小坂鉄道レールパーク10周年記念セレモニー」
左から小坂まちづくり株式会社森社長、小坂町細越町長、小坂鉄道保存会千葉会長

2024年6月、小坂鉄道保存会の活動拠点・小坂鉄道レールパークは、開園10周年を迎えました。そして、その記念の年に、クラウドファンディングでの皆様からのご支援によって「ブルートレインあけぼの」が美しくよみがえり、宿泊営業が再開されたのです。私たちの悲願が一つ達成されました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

今年は限定的な営業となっていますが、保存会による車内放送等の「魅せ鉄オモテナシ」は実施率100%で、多くのお客様に喜んでいただいています。

さて、私たちの悲願はもう一つ、小坂鉄道オリジナルのディーゼル客車キハ2101の整備です。小坂町ではクラウドファンディング第二ステージでの支援金を活用し、まずは外観の修復を目指しています。保存会では自主活動としてディーゼル機関車や貨車の整備も引き続き行いますし、腐食の激しい枕木の交換も少しずつ実施する予定です。課題は地域住民の方々に一層ご理解いただくことですが、町や運営するまちづくり株式会社と協力しながら、一步一步進んでまいります。

くりはら田園鉄道公園

くりでんミュージアム 旧若柳駅 芝生広場

KURIDEN MUSEUM & RAIL PARK

〒989-5501 宮城県栗原市若柳川北塚ノ根 17-1

TEL：0228-24-7961 FAX：0228-24-7962

入館料＝一般 500 円／小中学生 300 円／未就学児無料 休館日＝火曜日

KD 乗車会＝1 名 300 円（未就学児無料） レールバイク＝1 台 500 円

指定管理者：NPO 法人 Azuma-re 管理責任者（連絡先）：高橋尚史

くりはら田園鉄道公園概要・・・

2007 年 4 月 1 日に廃線となったくりはら田園鉄道。その資料や車庫、若柳駅・車両などを含む一体を保存・活用する施設として、栗原市営で 2017 年に開館いたしました。当施設は資料館を含む静態保存車両・車庫の展示を行うミュージアムゾーン、若柳駅を拠点に片道 900m の保存線路を有し、乗車会や運転体験を行うアトラクションゾーン、動態保存車両が見える線路脇に作られた芝生広場の 3 拠点からなる複合施設となっております。



施設内をストリートビューで閲覧できるようになりました。



R6 年度 保存・修繕活動

TOPIC 1・・・昨年に引き続き、動態保存車両の枕木交換（100 本程度）予定（冬季作業予定）

2017 年のミュージアムオープン時に大規模な保線作業を行ってから丸 5 年経過し、劣化も進んできた枕木を令和 4 年度から徐々に交換を開始。昨年は栗原市予算で特に劣化が進んだ 100 本を交換しましたが、今年度も 100 本の追加交換を実施予定です。保線技術に関してはくりでん保存愛好会の指導もいただきながら、駅業務および保存会スタッフが動態保存区間の枕木管理について引き継ぎを行なっています。



TOPIC 2・・・運転士の指導が進んでいます。

現在 3 名の栗原市認定運転士（うち 1 名はくりでん OB）がおりますが、くりでん保存愛好会と連携し、追加の運転士 2 名に関して指導を進めてきました。常備 5 名の運転士を目標に、指導を進めていきます。また、主要動態保存車両である KD95 形の認定後、他動態保存車両指導へ着手する例も出てきました。現在 1 名の運転士が、DB101 の指導を終え、KD10 形の運転に着手したところです。



TOPIC 3・・・2025 年はくりはら田園鉄道 30 周年・栗原電鉄 70 周年アニバーサリーイヤー

1995 年に社名を変更したくりはら田園鉄道が 2025 年に社名変更から 30 周年を迎えます。また、1955 年栗原電鉄に社名を変えてから 70 周年でもあります。くりでんミュージアムでは、記念ヘッドマークや記念乗車券、M153 の活用などアニバーサリーイヤーの準備の検討段階にあります。（また、栗原市合併 20 周年でもあり、市全体として盛り上げられるよう進めたいと思います。）



R5 年度 施設運営・活動報告

令和 6 年度も例年通り、ミュージアムイベントの開催および乗車会 / 運転体験開催を行っております。

TOPIC 1・・・指定管理が 5 年間（令和 10 年度まで）延長となりました！

令和 3 年度から始まった指定管理によるくりはら田園鉄道公園運営ですが、無事再審査が通り令和 10 年まで NPO 法人 Azuma-re で運営できることになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

TOPIC 2・・・令和 7 年度から展示がバージョンアップ予定。

令和 3 年度より運営を続けてきた中でより一層お客様に「体験」のコンテンツを増やしてあげたいという思いから、現在ミュージアムの静態保存車両への改造計画が進行中。手始めに前照灯の点灯などを進めております。また駅舎では閉塞機体験や、腕木式信号機への進路表示灯設置などが進んでいます。



TOPIC 3・・・運転体験が例年より好調な売れ行きとなりました。

当館のメインコンテンツである KD95 形運転体験ですが、全国の運転体験実施施設様に広報をご協力いただくことにより、例年より早く完売することができました。ご協力いただいた日本鉄道保存協会会員の施設様にはこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。



TOPIC 4・・・岩手宮城内陸地震から 16 年が経過しました。

2008 年 6 月 14 日に発生した岩手宮城内陸地震から今年で 16 年が経過しました。



令和 5 年度の入館者等結果報告

来場者数・・・12,705 名（令和 4 年度比 1034 名減）

乗車会参加者・・・5,815 名（令和 4 年度比 21 名減）

運転体験参加者・・・63 名（貸切運転体験や子ども運転体験など含む）

令和 5 年度はコロナが完全に開け、イベントの自由度が増えた反面、近隣施設への流出もあり、集客が思うように行かない部分も多かった。令和 6 年度も苦しい状況であるが、令和 7 年度に期待したい。

団体名	みちのく鉄道応援団 (東北鉄道資料保存協議会)	〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3 JMF ビル仙台 01 八階 Tel : 022-397-7240 Fax : 022-224-6460 Email : t-kusaka@livet.jregroup.ne.jp 担当者 : JR 東日本東北総合サービス株式会社 総務部 日下敏彦 橋場文耶
-----	------------------------------------	--

令和 5 年度活動報告

令和 6 年 9 月 9 日現在

みちのく鉄道応援団

代表幹事 佐藤 茂

コロナ禍も過去のものとなりつつあるこの一年であった。概ね令和 5 年 10 月からこの一年を顧みて以下記す。

幹事会は月一回の頻度で行っていたが、各回インターネットを用いて電子紙上開催とした。この方式はコロナ禍から続いているものだが、一方で鉄道談義と称する懇親会を部分的に復活させ、諸行事も着手できる所から再開している。

当会の重要事項の一つ、交流電化試験関連の諸資料の保存に就いては、同資料を収集し体系的に保存・展示・出版を行っていた東北福祉大学鉄道交流ステーションが同大学の方針に拠り去る 3 月に廃止された。同資料の行く末が最大の懸念事項であったが、同大学の先生方や関係者の尽力により井門グループへの継承が決まり、既に譲渡が完了している。(月刊鉄道模型趣味 2024 年 2 月号御参照)

地方交通線関連活動では、当地の阿武隈急行線の応援乗車会を複数回実施した。同じく利用者数低迷の陸羽東線も存続の危機に晒されており、当会としても注視している。

他機関との関係では、仙台駅主催で令和 5 年 10 月鉄道の日に関んだ行事が展開され、その一環として 1/80 鉄道模型の走行展示を宮城野鉄道研究会と共に行った(鉄道模型趣味 2024 年 1 月号御参照)。9mm ゲージでは、同じく令和 5 年 10 月期に当会の関連団体である戸隠高原鉄道に拠り大規模な運転会が宮城県山元町防災拠点・山下地域交流センターで行われた。このセンターは、津波被害の大きかった常磐線山下駅に隣接した新施設である。

また、C601 保存会も通常の活動に戻り、当令和 6 年 3 月 23 日(土)には修理箇所調査に参加し、更に当令和 6 年 4 月 20 日(土)には掃除会が行われ、当会からも参加した。機関車の現地説明も仙台市の要請に対応し仙台七夕祭など中心部で開かれる行事と連動して行った。この他にも一関図書館 C58103 号掃除会に当会の会員が参加した。

当令和 6 年 7 月には仙台メディアテークにて幻灯会「楽しきかな撮り鉄の旅」に会員が欧州の鉄道の発表を行い写真の映写と共に解説を行った。

そして、会員向けに令和 2 年 7 月から毎週土曜日に鉄道関連動画の紹介を続行している。これはコロナ禍の下で移動が制限されていた際の会員間の意思疎通の一環として始めたもので、過去の記録性の高い動画を観ることで時間旅行も行うと言う企てである。解説を付し、概ね地元・国内・世界と順に巡っている。既に約 200 本は行なった。メールアドレス登録済みで且つメール連絡を可とされている会員に向けて行っている。



写真 鉄道の日 仙台駅行事での走行展示
-16 番及び HO 令和 5 年 10 月 14 日

最後に訃報を申し上げねばならない。当会の創設者の一人で初代代表幹事を務めた小林和夫会員が去る令和 6 年 4 月 16 日に逝去した。旧秋保電車経営者の御子息で、世界中の市街電車に精通していた。また、当地の鉄道資料の保存活動にも尽力し多くのものを遺している。然し、交流電気機関車の保存が心残りであった。当地に保存されていた試作交流電気機関車は総て解体されたが、当地に於ける交流電化試験の技術成果は新幹線の基として不動のものであると共に、作並駅には当時の面影を今に伝えており、その価値は揺るぎない。氏の志を引き継ぎ、御冥福を祈る次第である。

コロナ禍に耐えている間に活動等に制約を受けたが、その回復努力を図っている所である。
(以上)

団体名	真岡線 S L 運行協議会 (芳賀地区広域行政事務組合内)	〒 321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412 番地 Tel : 0285-82-9151 Fax : 0285-82-9152 URL : https://www.moka-railway.co.jp/ Email : furusatoshinkou@hagakouiki.jp 担当者：浅川 健
-----	----------------------------------	--



▲子供達と N ゲージ体験

「S L もおか」運行概要

- 【運 行 日】 毎週土曜日・日曜日（年末年始を除く）
- 【運行区間】 真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
- 【運行時間】 下り 下館駅10:35発～茂木駅12:06着
上り 茂木駅14:28発～下館駅15:58着
- 【運行車両】 S L C12形66号
P C 50系 オハ2両、オハフ1両
D L DE10 1535 1両

【S L もおか 近況報告】

◆「下館駅 S L & D L 運転台見学会」を開催しました。

真岡鐵道「S L もおか」を応援するボランティア団体「もおか S L 倶楽部」は、令和5年10月9日（月）に茨城デスティネーションキャンペーン（茨城DC）に併せ、真岡線の玄関口である下館駅において S L & D L 運転台見学会を開催しました。あいにくの雨模様となった日でしたが、120組の来場があり、参加者は運転台に入ると講師の説明を熱心に聞きっていました。この他、オリジナル缶バッジのプレゼント、歴代ヘッドマークの展示も同時開催し、特に子どもたちには缶バッジが人気でした。



▲S L 運転台見学会



▲缶バッジプレゼント



▲歴代ヘッドマークの展示

◆S L もおかは運行30周年を迎えました。

平成6年3月に運行を開始してから、令和6年3月で運行30周年を迎えました。これを記念し、3月24日に出発式を下館駅で執り行い、新たな門出を祝いました。

この日は、記念ヘッドマークのお披露目と、茨城県筑西市長による発車合図が行われました。

ヘッドマークは、沿線各市町の特産品であるイチゴやサシバ、梨などをモチーフにしたデザインです。

出発の合図で、S L は大きな汽笛を上げ、終点の茂木駅に向けて発車していくと、ホームに集まった人達は思い思いにその雄姿をカメラに収めていました。

当日 S L に乗車された方は、約250名とほぼ満員状態で、ヘッドマークデザインをあしらったクッキーを配布しました。



▲運行30周年記念ヘッドマーク

一般社団法人あしおトロッコ館は、古河足尾歴史館の野外および2階室内展示場と、わたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物ホーム構内の2か所で活動しています。いずれも古河機械金属・わたらせ渓谷鐵道・日光市・足尾町民各位の深いご理解と協力のもと、保存活動を続けています。

【一般社団法人 あしおトロッコ館の活動状況】

その1 古河足尾歴史館 野外

足尾ガソリン軌道歴史館線とトロッコ展示場

●毎月第一土・日のガソリンカー運行のほか KATO のディーゼル機関車トロッコ列車も運行

その2 古河足尾歴史館 2階

あしおトロッコ館室内展示場

●古河足尾歴史館開館日は公開。

その3 わたらせ渓谷鐵道 足尾駅

動態保存車両(軌間 1067mm)

●わたらせ渓谷鐵道などの団体見学のほかに、一般公開は年2回開催されています。次回は11月10日(日曜日)を予定しています。

近況報告

足尾駅の保存車両たち

メンバーの修復活動により、貨物ホームにて保存中のキハ30-35の室内灯等の電気関係が復活しました。来年度は外板整備を計画しており、近々クラウドファンディングを開始する予定です。

また、東北本線の矢板駅から保存のため足尾駅にやってきた日立製作所製 15t ロッド式ディーゼル機関車 DB064 号機の製造年は1964(昭和39)なので、今年は還暦お祝いをしました。

あしおトロッコ館のフリクションドライブ機

珍しい変速装置”フリクションドライブ式”で日本に現存する内燃機関車は、いまのところ6台で、そのうち2台があしおトロッコ館に保存されていますが、唯一の動態保存機なのが米川鉄工所製の3t ガソリン機関車です。最近はこの動く化石的？な機関車を見に訪れる方もいます。



▲室内灯と前照灯が点灯し、足尾駅で保存されているキハ35-70。近々、整備のためのクラウドファンディングを始めます。



▲矢板駅の元栃木県北通運の日立製作所製 15tディーゼル機関車は今年、60歳の還暦を迎えました。



▲右があしおトロッコ館の主役である足尾のガソリンカー。左がフリクションドライブ式の米川鉄工所製の3tガソリン機関車。ともに軌間610mmです。



▲エンジンとクラッチを経由してきた円盤(左側)に接続する、縦の円盤(右側)を左右に動かすことによって、前進後進と速度調整をする仕組み。原始的な変速装置です。

団体名	鹿島鉄道保存会 <鹿島鉄道記念館>	〒332-0003 埼玉県川口市東領家 4-3-14 TEL 048-223-5088 URL https://www.facebook.com/kashitetsu 代表者: 加藤三千尋
-----	--	--



鹿島鉄道保存会は、2007年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～銚子間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志で構成され、「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【保存車両】

キハ714(1953年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)

KR-501(1989年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)

キハ431(1957年東急車輛 元加越能鉄道キハ125) ※2023年8月再塗装実施

【保存建物・物品】

玉里駅上りホーム待合室

各種ヘッドマーク、サボ、駅名板、時刻表、信号機・制御盤、キロポスト、改札ラッチ等

乗車券、鹿島鉄道・かしてつバス関連グッズ・書籍・DVD・写真等

かしてつ応援団・存続運動関係資料等

【活動報告】

2023年12月に関鉄観光主催によるバスツアー「第3回 鹿島鉄道保存車両見学と廃線巡りの旅」が催行され、鹿島鉄道記念館を特別公開しました。このツアーは本会・銚子駅保存会・小川南病院・鹿島鉄道の連携により保存車6両の見学と坂戸駅周辺の廃線ウォーク、かしてつBRT乗車ができるコースで、当会スタッフが全行程をサポートしました。

2024年6月1日～9日、小美玉市小川文化センターアピオスにて「かしてつ石岡～常陸小川間開通100周年記念事業」を銚子駅保存会・小川南病院との共催で開催しました。鹿島鉄道・かしてつバスの写真や資料を展示したほか、開業100周年当日の6月8日は『かしてつファンの日』として、鉄道模型運転会・上映会を実施し、開催最終日の6月9日には、鹿島鉄道の83年、かしてつバスの17年を振り返るとともに、これからの地域公共交通をテーマとした『記念シンポジウム』を開催しました。

現在、鹿島鉄道記念館は館内展示のリニューアル作業中で、次の一般公開時期は未定です。



関鉄観光バスツアー特別公開



小川文化センターで開催した記念展・シンポジウム



キハ601とKR-505の保存活動をしています



当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線 (2011-01-16)

2007年3月末で廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車(キハ601・KR-505)の保存活動を行っています。

キハ601は昭和11(1936)年川崎車輜製のキハ42032(後のキハ07)で、鹿島鉄道廃線時には全国で最古の営業用気動車でした。今年米寿を迎えます。

KR-505は平成4(1992)年新潟鉄工製の鹿島鉄道独自の気動車で製造後32年となりました。

鹿島鉄道の源流である鹿島参宮鉄道の開業は大正13(1924)年(全線開業は昭和4(1929)年)であり、今年、2024年が開業100周年となるため、開業日に合わせ6月に、沿線の小美玉市において、当会と同様に鹿島鉄道の車両の保存活動をしている鹿島鉄道保存会殿・小川南病院殿との共催、そして小美玉市殿・石岡市殿・小美玉市教育委員会殿・関東鉄道殿の後援、関鉄レールファンCLUB殿の協力で鹿島鉄道石岡～常陸小川間開業100周年事業を実施しました。(写真展・資料展・記念シンポジウム)

当会は、2両が展示されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開と、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR-505は廃線後の2008年1月に当会が鹿島鉄道様から購入したものでした。当初、鉾田駅保存会は賃借した鉾田駅跡地において保存活動をしていました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、2両を保存することになり、当会は2両の気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。2010年度より、現在地での車両公開イベントを開始しています。

2011年の東日本大震災で液状化により道床破壊と車両の傾斜・床下機器損傷等の被害を受けました。車輛を一時的に移動して復旧が行われ、2011年12月に元の道床に復帰し2012年3月より公開イベントを再開しました。

以後3～11月の原則最終日曜日(7月・8月は最終土曜夕方方の夏日程)の定期車両公開イベントを継続実施してきました。並行して天候の比較的安定した12～3月に全塗装等の大規模補修作業を行い、その他の保守作業は随時実施してきました。

2022年度は定期公開・広報活動を実施するとともに、鹿島参宮鉄道会社設立100周年・廃線15周年にあたるため水戸市において『鹿島鉄道廃線15年展』を鹿島鉄道保存会様と共催で実施しました。

2023年度も定期公開と特別公開、周辺のイベントでの広報活動を実施し、冬季は2両の全塗装を実施しました。

2024年度も、3月末から車両公開を実施しています。

今後の定期公開日程は、10/27・11/24の予定です。

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

- (1) 鹿島鉄道関連資料等の展示
- (2) 保存活動内容の展示・広報
- (3) 車内でのプラレール遊び
- (4) 車内での鉄道模型展示運転
- (5) 5インチ乗用鉄道の体験乗車

(16m×12mオーバルほか)

また、鉾田市や商工会主催の鉾田うまっぺフェスタ・ほこたいっぴんマルシェ・くぬぎの郷まつりなどの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。近隣施設での広報活動も実施しています。

廃線から17年が経過し、毎年補修・塗装を行っているとはいえ露天での保存のため車両の劣化も進んでいます。

錆びを落とし塗装をするだけでは足りない箇所も多々あり、技術力(防錆・溶接等)の向上と補修用機材(溶接機等)の導入、人員の強化が変わらぬ課題です。



開業100周年記念シンポジウム(2024/6/9)

団体名

陸・海・空・宇宙のテーマパーク 「ユメノバ」

〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
Tel:0296-48-7417 Fax:0296-48-7419
URL: <https://www.shimodate.jp/>
Email: honten@hirosawa-shoji.co.jp
担当者: 野口・石川

○陸・海・空・宇宙のテーマパーク「ユメノバ」が2月11日オープン



「ユメノバ」は、56,000㎡（東京ドーム約1.2個分）の敷地に、陸・海・空・宇宙の乗り物が勢揃いしたテーマパークとして、本年2月11日にオープンしました。

12両の鉄道車両の保存している「レールパーク」、国立科学博物館と連携した「科博廣澤航空博物館」、27台の消防自動車やミニカーを展示している「消防自動車博物館」、クラシックカー博物館など25施設を整備しました。

昨年実施された「いばらきDCキャンペーン」では、「茨城のサグラダファミリア」として紹介され、開業前の特別公開イベントとして、多数のお客さまにご来場いただきました。今後も、「いつ来ても新しい発見がある」をコンセプトに様々な企画、展示を目指しています。

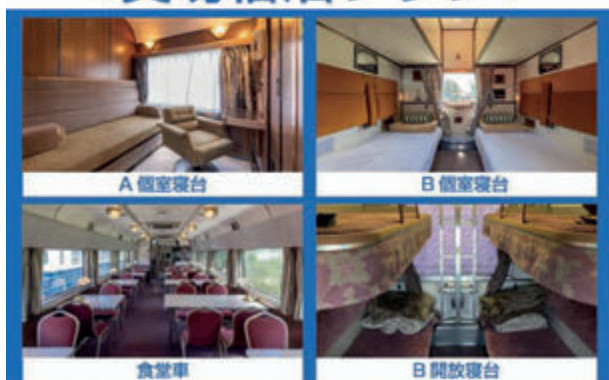
また、こうした取り組みを受けて「社会貢献とまちづくりに寄与し、滅失の危機にあったYS-11などについて、永続的な保管・公開の場を提供した」として、令和5年度文化庁長官表彰を受領することができました。

今後も、すべての世代で楽しめるテーマパークを目指して運営して参ります。

○寝台特急「北斗星ユメノバ」宿泊営業を7月からスタート



寝台特急「北斗星」 ＜貸切宿泊プラン＞



自然・健康・文化の都(まち) ザ・ヒロサワ・シティ
令和5年度文化庁長官表彰 受賞

宿泊プランご案内

■販売 宿泊営業期間
令和6年 10月31日(木)まで
令和7年 3月15日(土)から10月31日(金)まで

■ご予約料金 貸切利用 **200,000円(税込)** 最大定員48名

- ※1名様からの貸切利用が可能です。
- ※夕食・朝食はご予約に合わせてご対応いたします。
- ※ユメノバ入園料は別料金となります。

■ご利用施設車両
＜北斗星1号車から4号車＞

1号車	A 寝台個室 (1人利用/2室) B 寝台個室 (2人利用/7室)
2号車	グランシャリオ (食堂車/24席)
3号車	ロビーカー (共有スペース)
4号車	B 寝台 (開放2段式ベット/32ベット)

宿泊施設のご案内

■チェックイン 17:30から18:00
チェックアウト 8:00から9:30迄

■アメニティ
【客室内】バスタオル・フェイスタオル・歯ブラシ・髪髯剃り
【シャワー室内】ドライヤー・シャampoo・リンス・ボディソープ

■トイレ・シャワー室
北斗星車外になります。
シャワー利用時間 (18:00から翌08:00迄)

【ご利用時の注意事項】

- 車内のトイレ、シャワー室はご利用出来ません。
- 車内は禁煙となります。
- 貴重品の管理はお客様自身又は3号車ロビーカー内のコインロッカー（無料）をご利用ください。
- 寝台車（1号車/4号車）はお客様自身で、清潔の管理は出来ません。
- 車両及び隣接する施設を損傷、汚損した場合は修理または交換費用をご請求させていただきます。

【ご予約時のお願い】

- ご予約後の日程変更、お取消料は宿泊日の前日から起算して7日前から金額ご請求となります。
- 宿泊人数とお部屋割り確定しましたら、宿泊日の7日前までにご連絡ください。
- ご宿泊代金は、前払金（決済）となります。

【ご連絡・お問い合わせ先】

ユメノバ
住所: 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
電話: 0296-48-7417 FAX: 0296-48-7419
担当: 中村・石川

団体名	一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel : 027-380-4163 FAX : 027-380-4111 URL : https://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email : bunkamura@usuitouge.com 担当者：事務局長 小崎 正人
-----	-------------------------------	---

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパE F 6 3形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経路に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンした鉄道のテーマパークです。今年で開園24年目を迎えました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早26年が経過し、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月のお盆過ぎまで、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の運転体験も3,000人が受講されています。2023年度は59名の受講者（内、女性2名）があり、のべ3,174回の体験を楽しめました。また、通算500回以上運転された方が10名おり、ついに1,000回達成者が現れました。2024年度も引き続き多くのお客様が運転体験を楽しまれています。

20時まで営業を延長する「ナイトパーク」や屋外展示車両広場で1泊のキャンプイベント、EF63形電気機関車指導員による低圧・高圧回路講座など、一般のお客様からコアな鉄道ファンの方まで楽しめる各種イベントを開催し集客に努めています。



運転体験で使用している EF63 形電気機関車



トロッコ列車シェルパくん



ナイトパーク



キャンプイベント

団体名	日本工業大学 工業技術博物館	〒 345-8501 TEL : 0480-34-4111 FAX : 0480-33-7570 URL : http://museum.nit.ac.jp Email : museum@nit.ac.jp 担当者：五月女 浩樹
-----	--	---

現在わが国の工業技術が世界最高レベルなのは先人達が懸命な努力をし続けてきた賜物であり、その経緯と成果に触れつつ技術発展を図る『温故知新』が工業技術の教育・研究開発には不可欠である。

そこで、学園創立80周年記念事業の一つとして1987年度に開設された当博物館では、国内外の先人達の成果である機械等を調査・収集・保存・展示することで、技術史研究の場を提供するとともに工業技術の教育・研究・啓蒙に貢献することを目的として、下記の諸活動を行っている。

- 1) わが国の経済発展に貢献した工作機械を主体に、機械機器類を調査・収集し、整理して保存・展示を行う。
- 2) 常設展示とは別に、年1回、中核である工作機械や身近な工業製品の技術をテーマとした特別展を開催する。
- 3) 国内外の技術の変遷を理解する上で必要な書籍・文献・関連資料（図面等）の収集を行い、整理して保存する。
- 4) 技術の変遷に関する記事、当博物館の活動、収蔵品の紹介などを掲載する『工業技術博物館ニュース』を発行する。

開設以来、収蔵品の数が年々増大するとともに質も向上してきており、現在、常設展示品だけで機械機器類大小合わせて500点以上に達している。特に約270台もの工作機械を保存展示し、そのうち約70%が動態保存であること、工場形式の展示も数点あること、機種別・年代順に展示し変遷が理解できることなどが、国内外の他の類似の博物館には無い大きな特長である。

生産機械以外では、国家プロジェクトで開発され世界最高効率を実証した大型ガスタービン、1891年に英国で製造され、長年わが国で活躍した**蒸気機関車2100形-2109号**、1919年に製造され、100年間にわたり箱根登山鉄道で活躍した**登山電車モハ1形103号**、2007年の学園創立100周年記念事業の一つとして調査・復元した**日野式2号飛行機**（レプリカ）なども展示している。蒸気機関車については、動態保存して、キャンパス内に敷設した軌道上で時折有火運転し、鉄道ファンだけでなく、多くの皆様に楽しんで頂いている。



黄金色ドームの SL 2109 号



英語版開設のホームページ

2109 号蒸気機関車について

英国 Dübs 社製の蒸気機関車 2109 号は、2024 年に 133 歳を迎えた。本博物館にご寄贈頂いてから 31 年の動態保存実績があり、現在も機関車の有火運転を実施している。有火運転については、オープンキャンパスを中心に実施している。運転日時等の詳細は、工業技術博物館ホームページにて随時公開をしている。また、ボイラーのドームの再塗装を目的として下地を磨き上げたため黄金色のドームとなっていて、再塗装までの間はこの状態のままで運転している。

工業技術博物館英語版ホームページ開設

一昨年に工業技術博物館のオリジナルのホームページを開設したが、今年度は英語版のホームページを開設した。

URL : <https://museum.nit.ac.jp/en/>
ホームページでは、「工作機械」「原動機」「計測器」「復元町工場」「その他の工業製品」などのカテゴリについて英語で紹介している。今後は、順次、蒸気機関車 2109 号や箱根登山鉄道についても英語に対応していく計画である。

団体名	秩父鉄道株式会社	〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町一丁目 1 番地 Tel : 048-523-3337 Fax : 048-526-0551 URL : http://www.chichibu-railway.co.jp Email : syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者：木村 壮史
-----	----------	---

☆ 秩父鉄道 SL パレオエクスプレス ☆



『夜行列車』



『門デフ装備』

C58363 (シゴハチサンロクサン) はかつて東北地方などの旧国鉄 (現在の JR) で活躍した SL です。昭和 47 年に現役引退後は、吹上町立吹上小学校 (現、鴻巣市立吹上小学校) の校庭で小学生と一緒にのんびりと余生を送っていましたが、さいたま博覧会 (1988 年 3 月 19 日から 5 月 29 日まで熊谷市で開催) にあわせて「SL 運行を！」の声があがり、その大役に C58363 が抜擢され、1987 年に車籍を復活。1988 年に秩父路の SL パレオエクスプレスとして誕生しました。

今年は、夜行列車の運行や鉄道フェスタ開催時に門デフを装着して一ヶ月間の運行をおこないました。この後も、秩父地方の大自然の中を四季折々の景色と共に、SL の醍醐味を多くのお客様に楽しんで頂くため安全運行を続けてまいりますので、是非、皆様のご乗車お待ち申し上げます。

団体名

東日本旅客鉄道株式会社
公益財団法人東日本鉄道文化財団

〒330-0852

埼玉県さいたま市大宮区大成町 3 丁目 47 番

Tel : 048-651-0088 Fax : 048-651-0570

URL : <http://www.railway-museum.jp/>

鉄道博物館と DB 博物館が姉妹館提携を締結しました

○当館と DB 博物館（DB Museum ドイツ連邦共和国ニュルンベルク市）は、これまで収蔵品の貸し借りや世界の鉄道博物館の国際会議開催などで連携を行ってきました。

○両館の交流活動を更に強化する目的で、2024 年 7 月 11 日に DB 博物館において、姉妹館提携を締結しました。

○この提携により、従来からの文書・収蔵品の貸し借りなどに加え、共同企画展の開催など両館の更なる活発な交流を促進し、両国の鉄道文化と交通文化の発展に寄与していきたいと思いをします。



向かって左から

ドイツ鉄道財団 ランゲ マネージング・ディレクター、在ミュンヘン日本国総領事館 別所健一 総領事、JR 東日本パブリックサービス 黒田英朗 所長、DB 博物館 ゲッツェ 館長、DB 博物館 メルテンス 副館長、鉄道博物館 大場喜幸 館長、東日本鉄道文化財団 田浦芳孝 理事長、ニュルンベルク市 レーナー 文化担当市長、バイエルン州 ベルンライター 住宅・建設・交通大臣

参考：DB 博物館について

1882 年に設立された DB 博物館(DB Museum)は、現在、世界最古の鉄道博物館で、ドイツ連邦共和国のニュルンベルク市にあります。ドイツ鉄道(DB)の社会貢献の一環として、博物館はドイツ鉄道財団に属し、その傘下で運営されています。約 15,000 点の展示資料や、多数の歴史的な車両が展示されています。

団体名	一般財団法人 東武博物館	〒 131-0032 Tel : 03-3614-8811 Fax : 03-3614-8814 URL : https://www.tobu.co.jp/museum/ Email: kanri@tobuhaku.jp 担当者：管理担当 伊藤美千夫
-----	--------------	---

C-11 123 号機本体に ATS 装置搭載 機器搭載用車掌車なしでの運行可能に

東武博物館動態保存車両として、東武鉄道日光線・鬼怒川線で活躍を続けている C11 123 号機（元江若鉄道・雄別鉄道・釧路開発埠頭 C111）は、このほど車両本体に ATS 装置一式を搭載することに成功、これまで ATS 装置を搭載して機関車の次位に連結していた車掌車が必要なくなり、本来のスマートな姿での運行が始まりました。

また、これまで SL 3 機に対して ATS 装置用車掌車が 2 両のみの在籍でしたが、1 機が車掌車を必要としなくなったことにより、3 機がそろい踏み走行できる可能性が出てきました。



東武鬼怒川線、大谷向一大桑間を走行する、車掌車の連結がなくなった C11-123 号機を先頭とする「SL 大樹」

8 1 1 1 編成を使用した臨時列車 「懐かしの林間学校」を運転

7 月 1 3 日、東武博物館動態保存車両である東武鉄道 8 0 0 0 型 8 1 1 1 編成を使用した、東武博物館友の会主催「8 1 1 1 編成で行く懐かしの林間学校」が開催され、「林間学校」「たびじ」のヘッドマークを付けた 8 1 1 1 編成が日光路を往復しました。

東武日光線の急こう配区間を力走する 8 1 1 1 編成。
車内では林間学校らしく、東武における林間学校臨時列車の歴史、使用車両やダイヤの解説のほか、林間学校そのものの歴史についても学習し、大好評のイベントとなった



団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階 TEL : 03 (6380) 8511 FAX : 03 (3237) 1190
-----	-----------------------	--

「トラストトレイン」の活動について

運行日のボランティア活動では、車両の清掃や運行補助のほか、活動を周知するためのパンフレット配布などを行っています。他にボランティア間でミーティングも行い、活動を充実させるためには何をすればよいか、ボランティアや協力者を増やすにはどうすればよいかなど知恵を出し合い、行動に移しています。

また、運行日のうち一回を「親子ボランティア」として実施しています。親子ボランティアは、次世代を担う子供たちに歴史的車両を守っていく楽しさや喜びを伝えるため、歴史的車両と触れ合う機会、保存・活用に関わっているボランティアの方々や大井川鐵道の鉄道マンの方々と交流する機会となっています。

市民参加により動態保存されているこの貴重なトラストトレインを末永く維持管理するために、今後も皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。

*2023 年度報告：ボランティア参加者 延べ 47 名／4 日

2024 年「トラストトレイン」運行日ボランティアについて

2024 年 4 月 13 日（7 名）、10 月 5 日、11 月 9 日、12 月 7 日、2025 年 2 月 15 日

*いずれも土曜日

*10 月 5 日は「親子ボランティア」を開催予定

*（ ）内は参加者数

〔区間〕大井川鐵道 新金谷駅 — 川根温泉笹間渡駅

〔保有車両〕

C12 形 164 号蒸気機関車（休車中）、スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車



C12 形 164 号蒸気機関車（休車中）



運行日ボランティアの様子（2024 年）

2024 年 9 月「トラストトレイン交流会」を開催

2024 年 9 月 7 日（土）、トラストトレイン交流会「海外の鉄道・保存鉄道について知ろう！みんなで鉄道について語ろう！の回」を開催しました。会場参加 6 名、オンライン参加 3 名の計 9 名。海外の鉄道・保存鉄道について常連のボランティアさんが写真を用い説明した後、参加者で鉄道に関する情報交換や雑談を楽しみました！



トラストトレインのウェブサイトは、左の二次元コードからご覧いただけます。

2024 年 9 月 9 日時点

団体名	公益財団法人交通協力会	〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-5 新国際ビル 903 号 Tel : 03 6269 9808 Fax : 03 6269 9809 URL : https://www.transport.or.jp Email : suga@transport.or.jp 担当者：菅建彦
-----	-------------	--

沿革

当会の源流は、大戦中の 1943（昭和 18）年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。その頃、戦時経済のもとで紙が統制物資となり、いわゆる業界紙誌の発行が困難に陥っていました。陸運協力会は、これまで民間業者が発行していた鉄道関係の業界紙を統合して同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行を開始し、各種雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949（昭和 24）年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらはいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987（昭和 62）年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011（平成 23）年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類をデジタル版として復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ <https://www.transport.or.jp> の電子図書館にアクセスして ID とパスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。

『鉄道百五十年史』編纂事業

2022 年 10 月 14 日、わが国鉄道の創業 150 年を迎えました。当会は、『日本鐵道史』及び『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂に備えるために、2012 年以来調査・研究活動を進めていました。

鉄道省も国有鉄道も存在しない現在、編纂と刊行の主体をどうするか、資料の収集と保存をどうするか等の難しい問題もありましたが、2015 年 11 月から当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させ、審議を重ねました。その結果、総事業費 3 億余円をかけて、国鉄・JR だけでなく民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史（全 5 巻および資料編 1 巻）を編纂し、2022 年度に刊行することが決まり、2017 年 4 月、東京大学名誉教授原朗先生を委員長とする『鉄道百五十年史』編集委員会が発足しました。当会は編集委員会の事務局を務め、完成した『鉄道百五十年史』を当会の名で出版します。3 億円をこえる事業費は、JR 各社のほか民鉄など鉄道事業者、鉄道と関係の深い諸団体や企業などからの寄付で賄い、文字通りわが国鉄道関係者の総力を結集した事業となっています。

編集委員会は 2 年間にわたる議論を経て全巻の詳細な記述内容を決め、各巻 2 名の編集委員（経営史、技術史の専門家各 1 名）計 10 名のほか、約 60 名の分担執筆者が加わって、執筆を始めました。巻別の内容は、第 1 巻「創業から国有鉄道の誕生まで」、第 2 巻「帝国の鉄道の形成・発展・崩壊」、第 3 巻「復興期から高度経済成長期の鉄道」、第 4 巻「交通市場の変容と国鉄の経営危機」、第 5 巻「JR と民鉄の時代」となっており、1949 年の日本国有鉄道発足から 1987 年の国鉄改革までの約 40 年間に 2 巻を充て、この時代に特に重点を置いた構成になっています。『日本国有鉄道百年史』がいわば旧国鉄の「社史」であったのに対し、『鉄道百五十年史』は旧国鉄・JR のほか民営、公営の鉄道を含む「産業史」を目指すものです。また、数多く刊行されている私鉄各社の社史において殆ど無視されている技術史にも多くのスペースを充てるほか、グローバルな視点から日本の鉄道の発展史をとらえることを目指しています。

当初、原稿執筆は順調に進んでいましたが、日本国有鉄道百年史を編纂したときに収集された筈の資料が散逸しており、貴重な資料を記録したマイクロフィルムが劣化のため使用不能となっているなど、様々な困難に直面しました。さらに 2020 年からは新型コロナウイルス感染症蔓延のため図書館などが閉館となり資料調査に支障を来すなど、予期していなかった困難が生じました。このため、やむなく刊行時期を延期し、2024 年度中に刊行することとして、現在最終段階の諸作業を進めているところです。

団体名	しあわせは、ここにある  清瀬市 Kiyose City	〒204-8511 東京都清瀬市中里5丁目842番地 Tel : 042-492-5111 URL : https://www.city.kiyose.lg.jp/ Email : y_kihara@city.kiyose.lg.jp 担当者：経営政策部参事 木原雄嗣
-----	--	--

1 清瀬市の概要

東京都清瀬市は、都心からわずか25キロに位置しながらも豊かな自然に恵まれ、「水と緑」「集積する医療福祉施設と3つの大学」、「農のある風景」がまちの個性となっており、こうした個性を磨き、便利さと快適さを兼ね備えた魅力ある都市を目指しています。

西武池袋線清瀬駅から延びるけやき通りには、国内外の彫刻家の作品が並ぶ「キョセ・ケヤキ・ロードギャラリー」があり、市北部を流れる柳瀬川流域は柳瀬川回廊として整備しています。このコースには、桜やカタクリ、彼岸花など四季折々の花が咲き、カワセミなどの野鳥も見ることができます。

2 「夢空間」が清瀬市にやってきます

本市では、(仮称)南部地域児童館等複合施設を中央公園に建設するにあたり、多くのみなさまに訪れていただけるよう、多世代が楽しむことのできるものとして、鉄道車両を設置することにいたしました。

設置する車両は、三井不動産株式会社が管理運営する商業施設「三井ショッピングパーク ららぽーと新三郷」に令和6年9月現在、設置されている「夢空間」1号車の「ダイニングカー(オシ 25901)」と2号車の「ラウンジカー(オハフ 25901)」の2両です。

この2両について、令和6年度内を目途に本市への搬入を予定しています。その後、修復等を経て、令和8年2月には復活した「夢空間」の雄姿をみなさまへお届けしたいと考えています。

本市は、日本の豪華客車のパイオニアであり、日本鉄道史においても貴重な「夢空間」をオリジナルの姿に復活させたのち2両を連結した上で、屋根をかけた状態で保存し、後世に引き継いでまいります。あわせて「夢空間」が生まれ持った「飲食ができる車両」であることを最大限に活かすため、現役時に提供されていたオリジナルメニューを再現するなど、車両内で食事を提供したいと考えております。

しかしながら「夢空間」車両を修復し、しっかりと保存して後世に引き継いで行くためには、多額の費用が必要です。このことから本市では、みなさまからのご支援とご声援をチカラにして「夢空間」を復活させ、保存していきたいとの思いで、このクラウドファンディングを立ち上げました。10月31日まで第1弾を実施しておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。



撮影 倉繁 聡 氏



撮影 小坂鉄道保存会

団体名	「横浜市電 1156 号保存会」	Tel : Email : yokohamashiden1156@gmail.com 担当者 : 齊藤 大起 (さいとう ひろき) https://yokohamashiden1156.jimdofree.com/
-----	------------------	--

■団体の趣旨

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらき）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を修復・維持するとともに、毎月 1 回、車内を公開するイベントを開催しています。1156 号は 1952 年に製造され、横浜市電が 1972 年に全廃されるまで走り続けました。代表的な形式だった 1150 号型の最後の現存車両でもあり、貴重な存在といえます。車両を保存するだけでなく、電停や架線など周囲の情景も再現し、往時を知る人たちへの聞き取り活動も並行して続けながら、「街に市電が走っていた頃」を伝える「よすが」を目指しています。



▲輝きを取り戻した現在の 1156 号



▲照明を点灯した夕方の姿

■保存の経緯

2010 年末、神奈川新聞の記者（齊藤）が、荒廃していた 1156 号が解体されるとの情報を聞きつけ、管理当局の横浜市に修復など保存活動を申し出たことがきっかけです。当時は窓ガラスやドア、前照灯、尾灯、座席などの部品・機器類が全て失われ、とても哀れな姿になっていました。40 年近くにわたる屋外展示で風雨にさらされ劣化したことに加え、悪意ある人たちによる破壊、盗難などがその理由です。

時を同じくして、公園の近くに本社のある塗装業大手「サクラ」が、地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、横浜市環境創造局、サクラ、神奈川新聞社の 3 者で 1156 号の修復・保存を進めていくための覚書を締結しました。

修復作業は足場を組み、2 カ月を費やす大がかりなもので、失われていた窓ガラスやドアなどを極力再現。前後のライトや室内灯も点灯可能としました。座席は相模鉄道から寄贈していただきました。

さらに 2014 年には同局が車両周辺を大規模に改修し、擬宝珠のような飾り「ポールトップ」を載せた架線柱や、架線、それに電照式の電停標識も新調しました。道路から発掘された市電のレールを車両の前後に埋め込むことで、わずかながら路線の“延伸”も実現しました。

2020 年 12 月からは、横浜市電の運転・運行管理を楽しめるゲームアプリ「追憶の電車通り」（App Store, Google Play からダウンロード）の広告収益を、維持費に充当する仕組みも始まっています。



■横浜市電とは

1904（明治 37）年、民営の横浜電気鉄道として横浜市内に開業した路面電車。軌間 1372 ミリ。昭和 30 年代の最盛期には総延長 52 キロの路線を運行し、年間に 1 億 2 千万人を輸送したものの、道路の渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響を受け、1966 年以降、順次廃止が進み、1972 年 3 月 31 日に全ての路線がバスに置き換えられ、営業を終えた。他事業者への譲渡車両はなく、現存するのは横浜市磯子区にある「市電保存館」の 7 両のほか、市内に 4 両が残るのみ。

◀窓ガラスやドア、ライト、部品などが全て失われ、荒れ果てていた 2011 年当時の 1156 号

団体名	公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ ヘリテイジ)	〒 231-0012 横浜市中区相生町 3 丁目 6 1 泰生ビル 4 0 5 号室 Tel/Fax 045-651-1730 URL : http://www.yokohama-heritage.or.jp/ Email : yh-info@yokohama-heritage.or.jp
-----	----------------------------------	--

公益社団法人横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテイジ）の活動

ヨコハマヘリテイジでは、令和6年の調査、保護、普及事業を順調に進めております。

特に再建予定のモーガン邸の設計、藤沢市との建築確認調整などを行っております。また、保護資産である野毛都橋商店街ビル（横浜市登録歴史的建造物）は、構造体の腐食調査などを行います。

さらにネットワーク事業では、この度の日本鉄道保存協会馬路村大会の他、全国シルクロードネットワーク協議会白川村フォーラム（岐阜県）を開催いたします。

鉄道遺産としては、旧湘南電鉄（現・京浜急行電鉄）瀬戸変電所（昭和4年建造）の将来に亘る保存、活用計画を作成いたしております。その為の委員会を開催しました。令和6年～7年にかけてヨコハマヘリテイジと京急と力を合わせて現況調査、修復を行い、その後ヨコハマヘリテイジが所有し、保存活用する方向性をみいだしております。全国初の変電所の保存、活用に向けて微力ではありますが、邁進いたしたく存じます。皆さまのご支援、ご協力は不可欠です。ぜひ、ご支援ください。



瀬戸変電所 外観



瀬戸変電所 バラ窓



変電所から金沢八景駅



碍子が物語る歴史



当時のままのガラス窓

団体名	新潟市新津鉄道資料館	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 TEL 0250 (24) 5700 FAX 0250 (25) 7808 E-mail : railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL : http://www.ncnrm.com/ 担当者：加藤 裕之
-----	------------	--

◆新潟鉄道資料館概要

昭和 58 年 10 月 14 日、旧新津市が新津市鉄道資料館を開設しました。
平成 10 年 4 月、旧国鉄の鉄道職員研修所「新潟鉄道学園」を買い取って改修し、
二代目新津鉄道資料館として現位置に移転しました。
平成 17 年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」となり、平成
26 年 7 月にリニューアルオープンしました。

200 系新幹線、C57 形 19 号機蒸気機関車、485 特急形電車、DD14 形液体式ディーゼル機関車、E4 系新幹線、115 系近郊形電車、新幹線確認車 GA-100 を静態保存しています。新潟・新津地域の鉄道を地元と共に最大限活用する施設として、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。



E4 系新幹線と 115 系電車

◆施設概要

1. 位置 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
2. 交通 信越本線新津駅下車バスで 5 分。磐越自動車道新津 IC から車で 2 分
3. 建物 鉄筋 2 階建、延べ 1、764 m² (屋外展示場除く)
4. 展示品 新潟・新津ゆかりの鉄道資料約 800 点
5. 特色 実物車両 7 両展示、電車運転シミュレータ、ミニ SL (D51 形の縮尺 1/5) など

◆令和 6 年度事業

① 7 月 27 日～10 月 21 日

特別展「SL ばんえつ物語」・25 年の軌跡

新津運輸区に所属する「SL ばんえつ物語」が、四半世紀という長い期間、沿線の観光の大きな柱として活躍してきた軌跡をあらためて整理し、その特徴と果たしてきた役割について展示しています。

② 4 月～10 月 土日・祝日を中心にミニ SL を運行

③ まちなか鉄道資料館

新津商店街に新津鉄道資料館所蔵大型資料を設置・展示 (SL 動輪・踏切警報機等)。商店街も各店で鉄道関連の品を展示

④ 鉄道模型走行会 新潟市内の鉄道模型愛好団体の協力を得て開催

⑤ その他 実物車両車内公開、鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、他



◆実物車両展示



200 系新幹線・SL C57 形 19 号機



新幹線確認車 GA-100



DD14 形機関車と 485 系電車



鉄道の仕組みコーナー



ミニ SL「いつきてきち号」はお子さんに人気

団体名

長野県 上松町
赤沢森林鉄道

〒399-5601 長野県木曽郡上松町大字上松 159-4

上松町役場 Tel : 0264-52-4804 Fax : 0264-52-1038

URL : <http://www.town.agematsu.nagano.jp>

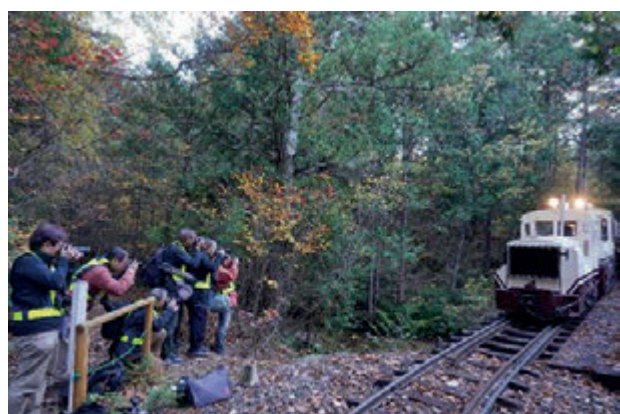
Email : syoukan@town.agematsu.nagano.jp

担当部署 : 産業観光課商工観光係

1987 年の復活運行開始から 37 年、赤沢森林鉄道は、赤沢自然休養林の園内を走り続けています。
2022 年度に引き続き、2023 年度も長野県地域発元気づくり支援金事業を活用し、木曽森林鉄道再生事業を行いました。

○No.99,120 塗装作業

寝覚の床に静態保存されている No.99,120 の塗装作業を実施しました。14 回の日程で、計 108 名の方にご参加いただきました。



○塗装実施済の No.86 動態保存実現性の検証

昨年度に塗装直しをした機体は、今後部品の代替等も含めて動態保存へ向けて動いていきます。10 月に行われた森林鉄道撮影会でも活用されました。

○モーターカー移送

木祖産業協同組合所有のモーターカーを譲渡していただき、2025 年度以降、修繕活動を実施予定です。



木曽郡内には、まだ多くの未整備車両が存在します。今後もより多くの参加者が関わって連携をはかり、森林鉄道の保存と観光活用に向けた熱意を高めていけたらと考えます。

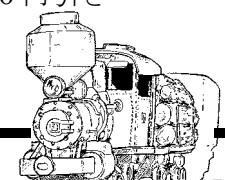
【赤沢森林鉄道 運行情報】

運行期間 : 2024 年 4 月 27 日～11 月 7 日 11 月 8 日以降は冬期運休

運行時間 : 閑散期＝10:00～15:00 まで 1 時間毎、 繁忙期＝9:30～15:30 まで 30 分毎

料 金 : 中学生以上 900 円、 4 歳～小学生 600 円 夏休みイベント期間は+200 円
団体 15 名以上 100 円引き、 障がい者ご本人半額・介添え者 100 円引き

運行情報 : 上松町観光協会 <https://kiso-hinoki.jp/>



団体名

信濃追分駅舎・可惜（あたら会）

〒 389-0115

長野県北佐久郡軽井沢町大字追分 1092

Email : mm4007jp@yahoo.co.jp（河合）

2024年（令和6年）9月 信濃追分駅舎新聞 第7号 あたら会発行



shinano-oiwake stationhouse news

信濃追分駅舎新聞



信濃追分駅で ウェディング フォトを撮影

今年も追分宿の朝市に連動して八月の日曜日に駅舎を開放、しなの鉄道も窓口をあけて乗車券を販売しました。初日の八月四日にはホームや駅舎を背景にウェディング写真撮影するなど、駅活用の可能性を探りました。

駅にゆかりの二人
駅でウェディング写真を撮影した二人は、一昨年の夏に開催した信濃追分駅イベントで駅舎ライブを行った京都府のフォーシックスと、ライブの観客として参加した杉浦陽介さん。信濃追分のイベントが縁になって交際が始まったそうです。今回、列車の来ない時間帯を条件に許可を取り、下りホームの復刻看板前と駅舎の玄関前で撮影を行いました。そのあと、駅舎内でささやかな結婚パーティーも開催、駅を利用する方々からの思われぬ声援もあり、手作りでお二人をお祝いしました。



115系をテーマに
一九九七年のしなの鉄道発足から主力電車として活躍してきた115形電車が、いよいよ二〇二八年に引退することになりました。これを受けて、駅事務室では旧信越本線の車窓から見える浅間・黒姫・妙高の名山をテーマに、しなの鉄道の絶景を115系が走る写真展示も行いました。



はつ菜さん、昨年追分宿の「油や」でも演奏



硬券きっぷ形「来訪記念券」も用意。レトロな日付印字機を使って自分で印字できるようにしました。



恒例の駅弁も販売
追分宿「寿美屋」の「高原花豆おこわ弁当」も販売。今年は115系電車特製掛け紙で、いずれも午前中に完売となりました。駅舎内では歴史展示や「池田陽子写真展」も継続。駅では上り線ホームの待合室がシロアリ被害で撤去となりました。また復刻看板も、脚部をコンクリートで固定しました。

駅スタンプはイベント開催時にスタンプ台に設置します。

団体名

足久保鐵道株式会社

〒 420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3

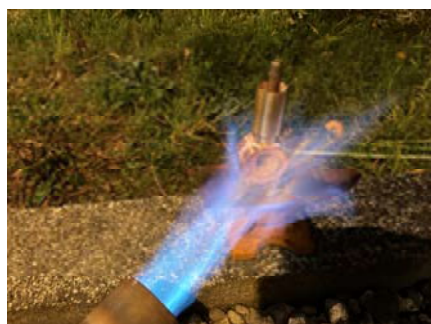
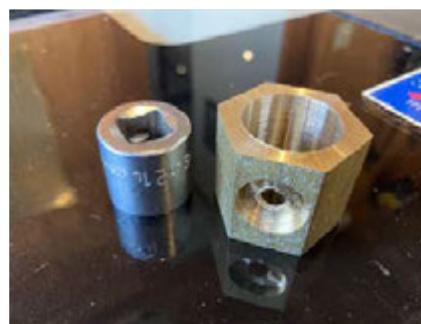
Tel : 054-207-7444 Fax :

URL : <https://www.facebook.com/ashikubotetsudo>

Email : tamai-h@tokai.or.jp

担当者：代表取締役 玉井 宏 政

数年かかりましたが、蒸気ブレーキの OH がほぼ完了しました。ブレーキハンドル製作からブレーキシリンダー、テコ、ピンに至るまですべてです。摩耗が酷く再利用不可の部品が多数でした。



団 体 名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 Tel : 0547-45-4113 Fax : 0547-45-4115 URL : oigawa-railway.co.jp Email : koji.sakamoto@daitetsu.jp 担当者：坂本光司
----------	-----------	---

本年度も「きかんしゃトーマス号」を2024年6月8日～12月25日までの105日間運転予定しております。そしてトーマス運行10周年を迎えました。大井川鐵道本線は、一昨年9月の台風災害の影響により千頭駅までの運転が出来ませんので、新金谷駅～川根温泉笹間渡駅間2往復運転を行います。2023年9月に富山県高岡市よりC11217号機を譲渡いただきました。今後は動態保存をめざして、計画的に修復作業を行っていく予定です。



本年度もトーマスイベント井川線のキャラクター「きかんしゃトビー号」が運転しております。奥大井湖上駅での星空観賞お楽しみいただく、星空列車を2024年10月下旬～2025年3月上旬までの土・日曜日（年末年始を除く）に運転いたします。



団体名	東海旅客鉄道株式会社 リニア・鉄道館	〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭三丁目2番2号 Tel : 052-389-6112 Fax : 052-389-6115 URL : https://museum.jr-central.co.jp Email : museum@jr-central.co.jp 担当者：〔運営企画・学芸〕 影山
-----	-------------------------------------	--

○入館料

大人	1,000 円 (団体 800 円)
小中高生	500 円 (団体 400 円)
幼児 (3 歳以上)	200 円 (団体 100 円)

※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日

毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)
年末年始/12 月 28 日～1 月 1 日

○展示

鉄道車両 39 両+バス 1 台、鉄道のしくみコーナー
超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ
シミュレータ、シアターなど



【高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア】

【2023～2024 年の活動報告】

○第 13 回企画展 (2024/3/20～2025/1/27)

- ・『リニア・鉄道館の蒸気機関車たち～貴婦人とシロクニ～』
“蒸気機関”の開発から“蒸気機関車”が誕生した経緯、
日本の鉄道のはじまりから、国産蒸気機関車の誕生、活躍、
晩年までを解説



企画展ポスター

○技術展示 (2024/6/19～2025/5/12)

- ・『列車用シートの歴史』
新幹線等の列車シートの歴史や特徴等を紹介



新幹線列車シート展示

○新幹線開業 60 周年展 (2024/9/11～2025/1/6)

- ・東海道新幹線の歴史、中央新幹線の概要紹介パネル
- ・「N700S 新幹線×サイボーグ 009」コラボフォトスポット

○高山線全線開通 90 周年キャンペーン

- ・キハ 82 形式気動車特別企画

○「THE こどもパスポート DAY」

- ・こどもパスポートの所有者向けに特別開館

○ワークショップ

- 「ミニジオラマをつくろう！」 など

○その他

- ・「きかんしゃトーマス×リニアしんかんせん」コラボイベント
- ・ジェイアール東海バス「高速バスにお絵描きしよう！」
コラボイベント
- ・踏切事故防止キャンペーン「踏切クイズラリー」
- ・JR 東海音楽クラブコンサート など



新幹線開業 60 周年展ポスター



「きかんしゃトーマス」コラボ

団体名	博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山1番地 Tel : 0568-67-0314 Fax : 0568-67-0358 URL : http://www.meijimura.com/ Email : masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆
-----	---------	--

<蒸気機関車>

- (株)JR西日本テクノスによる動態展示物の車両点検を3ヶ月に1回実施。
- 2023年7月25日(火)にオーバーホールを実施のためにSL9号の搬出作業を実施。
- 2024年2月末にSL9号の解体及び調査終了、2024年4月よりオーバーホール修理作業を開始。
- 転車台不具合の為、SL名古屋駅発SL東京駅行は逆機運転で運行中。※現在、転車作業は実施していません。
- SL12号のボイラー性能検査を8月1日(木)に実施。



SL9号ボイラー

<ハフ11・13・14>

- (株)JR西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。

<京都市電>

- (株)JR西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。

<設備工事・点検>

- 名鉄E1エンジニア(株)による電路・電気設備点検を半年に1回実施。
- 矢作建設(株)による軌道点検整備を半年に1回実施。

<蒸気機関車及び京都市電の動態展示>

蒸気機関車 SL12号が3両の客車を牽引します。※SL9号は現在オーバーホール実施中。
片道 大人700円 小学生500円 ※2024年4月1日に料金改定。

京都市電 1号車と2号車のどちらか1両が運行します。

1乗車 大人500円 小学生300円

SL市電一日券

乗り降り自由 大人1,000円 小学生700円 ※2024年4月1日に料金改定。



SL12号



京都市電

団体名	愛岐トンネル群保存 再生委員会	〒487 - 0004 愛知県春日井市玉野町 1660 Tel : 090-4860-4664 URL : https://aigi-tunnel.org/ Email : muramasa@mc.ccnw.ne.jp 担当者：村上 真善
-----	--------------------	--

【報告】

全国の近代化遺産を保有する自治体連合「全国近代化遺産活用連絡協議会」の全国大会が7/24~7/26、地元・春日井市で開催されました。

当会は賛助会員になっており、その縁あって全国大会開催を要請されていたもので、最終的に地元行政のご理解をいただき何とか開催にこぎつけました。期間中は全国から行政関係者ら延べ470人が来場されました。2日間にわたるフォーラムの他、視察会もあり当然”愛岐トンネル群”も現地ですっかりとアピールさせていただきました。



【レギュラーイベント】

毎年春・秋の計14日間、「特別公開」を実施しています。

今年で33回目（コロナで1度中止のため、17年目になります）の「秋の特別公開」を開催します。公開期間外は立ち入り禁止ということもあり、期間中は年々入場者が増加して、今秋の公開には、入場者が延べ40万人目の節目を迎えます。

秋は特に廃線上の300本ものモミジが色づき、紅葉狩りの来場者らによる混雑がオーバーツーリズムの様相を呈しており、その対策に悩ましい事態となっているのが現状です。

一方、今秋の公開時の新たなチャレンジとして

① エコ通行システムの実験線設置と試乗会



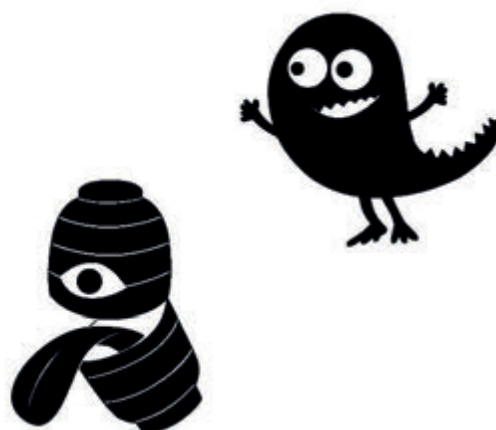
トンネル内を安全に通り抜けるため、地元・中部大学と双頭自転車による通行方法を共同研究しています。

25mの1本レールと転車台を製作し、試作車両を使って運航テストを実施します。来場者に乗車いただき今後の研究課題を探ります。

② 「妖怪トンネル」の開設

最長303mの真っ暗な6号トンネル（誘導灯のみあり）内の壁面に、“愉快的妖怪”の影絵を投射して、暗がりの利点？をアピールする・・・

実はゲゲゲの鬼太郎をテーマにしたかったのですが、著作権使用を断わられてしまいました。残念！



今後とも、再生を目指して楽しく活動を繰り広げてゆきます。デス。

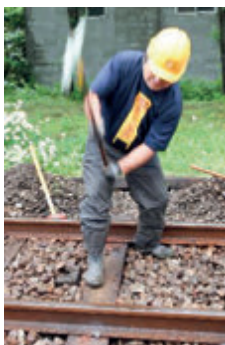
団体名

NPO 法人
神岡・町づくりネットワーク

〒 506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲
1327-2
Tel : 0578-82-6677 Fax : 0578-82-6677
URL : <https://rail-mtb.com/>
Email : info@rail-mtb.com 担当者：田口由加子

第15回枕木交換会を開催しました

2024年6月2日(日)、一般のお客様を募集して行う枕木交換会を開催しました。今回は約25名様の参加で5本の枕木を交換しました。今年の募集は安全面を考慮し、ご参加は小学生以上とさせて頂きました。雨が降る中でしたが、明るく！楽しく！保線活動！ご協力ありがとうございました！



旧機関車 DD-132 の運転体験を始めました

旧気動車「おくひだ号」の運転体験のお客様から、「神岡鉄道ならDDの運転もしたい！」というご要望が多く、元運転士のメンテナスの結果、エンジンは片廃ですが「止まる・動く・走る」ことができるようになったため、DDの運転体験も始めることができました。2024年度はモニタリング半分の運行ですが、来年度も動く限り運行したいと思います。



廃線印が全国に広がりつつあります

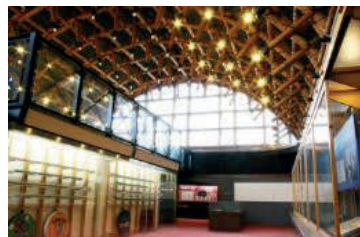
昨年から全国の廃線利活用事業者様に告知をしておりました「廃線印」ですが、今年の9月時点で(分かっているだけで)11箇所となりました。また、今後販売予定の廃線印もいくつかあります。ご検討中の皆様や、まだ「廃線印」に未着手の事業者様は、ぜひ左のQRコードから情報をご覧ください。(夢の廃線印帳のデザイン等も募集中です。ぜひお声かけください！)



■旧長浜駅舎 明治 15(1882)年 3 月 10 日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。1983 年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。2020 年 6 月 19 日、旧長浜駅舎を含む鉄道遺産「海を越えた鉄道 ～世界へつながる 鉄道のキセキ～」が認定されました。2022 年は、鉄道 150 年と同時に長浜駅開業 140 年の記念の年となりました。

■長浜鉄道文化館 公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として 2000 年 10 月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

■北陸線電化記念館 鉄道文化館と同様の趣旨で 2003 年 7 月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。D51 形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車の ED70 の 1 号機を展示しています。



2023年度 開催企画展・イベントなど

【企画展】

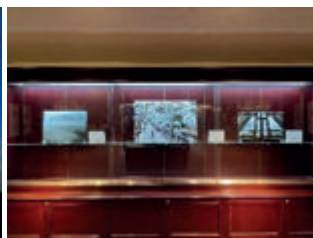
- 駅弁掛紙でたどる家康【2023/4/8～6/30】
- 鉄道模型展示～北陸本線の車両を集めて～【2023/7/15～8/27】
- OM SYSTEM 鉄道ファンイベント in 長浜 高屋力写真展【2023/9/2～9/24】
- TRAIN ART 展 in ながはま【2023/10/2～12/28】
- 第 3 回長浜鉄道スクエア鉄道写真コンテスト作品展【2024/1/10～3/31】



第3回長浜鉄道スクエア写真コンテスト
最優秀賞「乗りたいな」

【イベント】

- 鉄道イベント 2023【2023/4/30】・・・ロードトレインやエコバック作成などの体験。マルシェにて弁当販売を実施しました。
- 鉄道スクエアクリスマスイベント【2023/12/17】・・・D51 の汽笛吹鳴体験やペーパークラフトなどのワークショップを開催しました。



2024年度の事業・イベント

【現在開催中】■東海道新幹線 60 周年記念展【2024/10/5～12/28】

【現在募集中】■第 4 回長浜鉄道スクエア 鉄道写真コンテスト

募集テーマ：ふるさとの駅と鉄道

募集期間：2024/11/30 まで

審査委員：委員長 猪井貴志氏 (鉄道写真家)

委員 山崎友也氏 (鉄道写真家)

委員 米山淳一氏 (長浜鉄道スクエア名誉館長)

賞：最優秀賞・・・1 名／優秀賞・・・1 名

長浜鉄道スクエア賞・・・1 名／入選・・・27 名



公益社団法人長浜観光協会

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 3-24 えきまちテラス長浜

TEL.0749-53-2650 FAX.0749-53-3161

E-mail. kankou@kitabiwako.jp <https://kitabiwako.jp/tetsudou>



日本遺産
JAPAN HERITAGE

団体名	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会	〒919-0203 Tel : 0778-47-8002 Fax : 0778-47-3261 URL : https://www.town.minamiechizen.lg.jp Email : kanmachi@town.minamiechizen.lg.jp 担当者：観光まちづくり課 山本 啓博
-----	---------------------	---

○協議会概要

長浜市・敦賀市・南越前町に現存する明治時代の鉄道遺産など、近代化遺産を活用した広域的な観光連携を推進するため、平成29年10月19日に、長浜市・敦賀市・南越前町の3市町において連携協定を結び、協議会を設立しました。

当協議会では、明治15年に日本海側で最初に開業した長浜-金ヶ崎（敦賀）間の鉄道の歴史や、敦賀-今庄間の急勾配の峠越えなどを含むストーリーを活かし、県境をまたいだ広域観光の推進に取り組んでいます。

○令和5年度事業実績

① 6月23日

長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会総会



日本遺産ガイドブック

② 4月～3月

トンネルカードの配布



トンネルカード

③ 10月～2月

日本遺産滞在型周遊観光情報発信拠点整備事業

- ・日本遺産ガイドブックの再編（滞在型コンテンツ等のページを追加）
- ・各市町の観光拠点施設にデジタルサイネージ付きパンフレットラックを設置



デジタルサイネージ付き
パンフレットラック

④ 10月～2月

SNS等を活用した日本遺産プロモーション事業

- ・協議会Instagramの作成・投稿
- ・ランディングページや広告を活用したデジタルマーケティングの実施



協議会Instagram

⑤ 10月～2月

今庄まちなみ情報館リニューアル事業

- ・展示パネルおよび映像の多言語化を実施
(QRコードを読み取りスマートフォンで多言語化されたページを閲覧可能)

⑥ 11月4日・5日

日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子への出展



今庄まちなみ情報館
多言語化

⑦ 2月10日

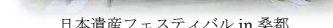
日本遺産の日関連イベントへの出展



日本遺産フェスティバル in 桑都

⑧ 3月16日・17日

北陸新幹線敦賀開業イベントへの出展



団体名 特定非営利活動法人
貨物鉄道博物館

事務局(三岐鉄道株式会社内)
〒510-8014 三重県四日市市富田3丁目22-83
TEL:059-364-2141 E-mail:frm_office@sangirail.co.jp
URL:http://frm.kans.jp/

■2023年度の活動経過

2023年度は、9月の開館20周年に合わせて、記念列車運行、開館20周年イベント、グッズ発売などの記念事業を行い、約2,000人の来館者で賑わった。



貨物鉄道博物館20周年記念列車を
撮影する来館者
2023年11月5日

■2024年度の活動計画

2024年度は、開館20周年事業で、旧関西鉄道鉄製有蓋車下回り復元作業進行中。



関西鉄道鉄製有蓋車復元中
2023年7月23日

◆2024年度定期開館日

2024年4月7日(日)、5月5日(日)、6月2日(日)、7月7日(日)、8月4日(日)、9月1日(日)、10月6日(日)、
11月3日(日)、12月1日(日)、2025年1月12日(日)、2月2日(日)、3月2日(日)

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒600-8835 京都府京都市下京区観喜寺町 Tel : 075-313-3374 URL : https://www.westjr.co.jp/ (JR 西日本) http://www.kyotorailwaymuseum.jp/ (京都鉄道博物館) Email : hotaka-kawaguchi02@westjr.co.jp 担当者 : 川口 穂高
-----	-------------	---

1. 京都鉄道博物館

西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）が所管する
京都鉄道博物館は、2024 年 4 月に開業 8 周年を迎えました。

京都鉄道博物館では、本物の蒸気機関車が牽引する「SL スチーム号」や「引込線車両展示」、現役の JR 社員が子供達に鉄道のお仕事を解説する「鉄道おしごと体験」など、楽しく学べる企画がいっぱいです。加えて「運転シミュレータ」や「鉄道ジオラマ」も大人気！

SL スチーム号



運転シミュレータ



鉄道ジオラマ



引込線車両展示



DE10 形ディーゼル機関車
12 系急行形客車



521 系近郊型電車

鉄道おしごと体験



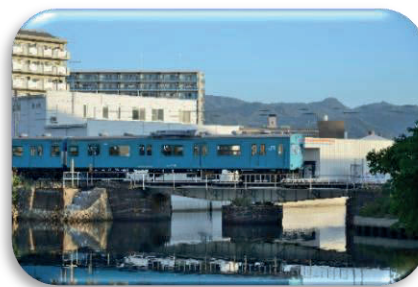
2. 鉄道文化活動

JR 西日本では、専門の部署を設け京都鉄道博物館を中心に当社エリア内の鉄道文化財を保存・管理し、これらを活用する鉄道文化活動を推進しています。

当社エリア内の鉄道文化財(例)



マイテ 49 形 1 号車



和田岬線旋回橋

団体名



公益財団法人
交通文化振興財団

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目2-26
天神第一ビル1004号室
Tel : 06-6309-5113 Fax : 06-6309-5114
URL : <https://www.tcpf.or.jp/>
担当者：事務局交通資料調査センター

○交通資料調査センターの活動

当財団の交通資料調査センターでは、交通の歴史と文化を未来へ継承するために、交通に関わる歴史資料の収集・保存や各地に残されている歴史遺産の調査活動を実施しています。

歴史資料の収集・保存

交通の歴史や文化に関わる文書類、写真、記念品、記録、文献等の資料類の散逸を防ぐため、それら資料の収集・保存を実施しています。収集方法は主に皆様からの寄贈で、昨年度は78件約7,000点の資料を寄贈いただきました。また、所蔵資料のデジタルデータ化を進め、その一部は、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」で公開しています。

交通文化振興財団デジタル資料館は
こちらから⇒



歴史遺産調査

交通に関わる歴史的・文化的事物の現地調査等を実施し、現状を写真や記録にして後世に伝える活動を進めています。他団体様からの依頼による調査や共同での調査にも対応しておりますので、お気軽にご相談ください。



交通の歴史遺産や歴史資料の保存・活用の意義を周知するため、他団体様と共同での講演会・見学会なども行っています。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄附により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

交通文化振興財団



団体名	特定非営利活動法人 加悦鐵道保存会	〒629-2403 京都府与謝郡与謝野町加悦 433 番地 旧加悦鐵道加悦駅舎 Tel : 0772-43-0232 Fax : 0772-43-0232 URL : http://kayatetsu.web.fc2.com/ Email : k8hozon@gmail.com 担当者：上野山 博己
-----	------------------------------	--

加悦鐵道保存会は京都府の与謝野町にある「加悦鐵道資料館」を拠点に、加悦鐵道遺産の保存・継承と、与謝野町で保存されている車両の維持・管理を行うとともに、「加悦鐵道資料館」の運営管理を行っています。また、加悦鐵道資料館の運営管理を通じて、与謝野町内の様々なイベントにも参画し、地域を盛り上げる活動も行っています。

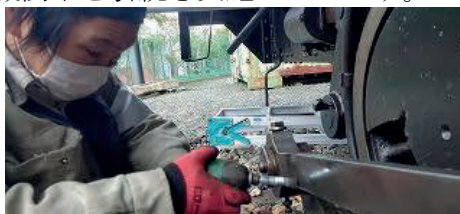
【 2023 年 9 月～2024 年 8 月までの主な活動報告 】

○123 号蒸気機関車（加悦 2 号機関車）生誕 150 年記念イベントの開催

123 号機関車（加悦鐵道 2 号機関車）が製造されてから 150 年になるのを記念して、加悦鐵道資料館でパネル展示による特別展と 123 号機関車（加悦 2 号機関車）の車内と重要資料・部品とハブ 3・ハ 4995 客車の車内の特別公開イベントを実施しました。

○C160 蒸気機関車の整備

加悦鐵道資料館に展示している C160 蒸気機関車を引続き実施しています。



○旧加悦 SL 広場のジオラマ作成

閉園した加悦 SL 広場の在りし日の姿をジオラマとして作成しました。



○屋外展示車両の維持管理

与謝野町と協議を行い、町所有の「123 号蒸気機関車（加悦 2 号機関車）」「ハブ 3 荷客車」「ハ 4995 客車」の日常清掃を含む維持管理を加悦鐵道保存会で本格的に行うことになりました。修繕等に関しては別途与謝野町と協議となりますが、加悦鐵道の車両を守るための大きな前進となりました。



○各種イベントへの参画・独自開催

与謝野町内で毎年開催されている「きものでぶらり♪ちりめん街道」への参画のほかに、当会で所有しているライブスチームやバッテリーカーを使用し、ミニ列車運転会を開催しました。



若桜駅を元気にする会

〒680-0701

鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5

若桜町役場 企画政策課内

TEL:0858-82-2231

FAX:0858-82-0134

E-mail:kikaku@town.wakasa.tottori.jp

講演会「文化財に恵まれた若桜谷の魅力と活用」開催

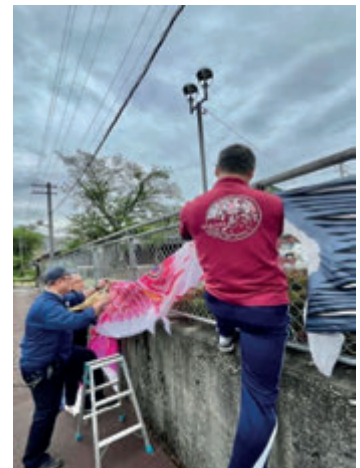


令和5年12月2日に米山淳一事務局長を講師にお迎えして、講演会「文化財に恵まれた若桜谷の魅力と活用」を開催しました。

当日は大勢の聴講者が集まり、若桜鉄道23施設（有形文化財）、不動院岩屋堂（重要文化財）、若桜宿（重伝建地区）などの文化財を活用した観光と、地域の持つ可能性、そして若桜谷と鉄道のかかわりについて学びました。

沿線景観改善活動

若桜駅を元気にする会では沿線への菜の花やスイセンの植樹を行っております。また、沿線各駅の団体と協力して若桜駅構内に鯉のぼりの飾り付けも行いました。



DD16・12系客車を使用した観光列車の本線運行を目指す

当会では若桜町が主催するSL等活用検討委員会に参加し、若桜駅に保存されている国鉄型車両の活用について協議を重ねてまいりましたが、同委員会ではDL観光列車の本線運行を目指すという提案にまとりました。

提案を受け、若桜町では調査を行い、実現の可能性を探ります。もしDD16形ディーゼル機関車の本線運行が実現すれば日本で唯一となります。

画像はSL走行社会実験（平成27年4月）の光景。



団体名	山口線 S L 運行対策協議会	〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号 山口県観光プロモーション推進室内 Tel : 083-933-3204 Fax : 083-933-3179 URL : http://www.c571.jp/ E-mail : c571@c571.jp 担当者：山本 康幸
-----	-----------------	--

S L やまぐち号運転再開記念出発式を実施

○令和6年5月3日（金・祝）、2年振りのS L やまぐち号の運転再開を記念して、新山口駅で出発式を実施しました。

○記念式典では、県知事、山口市長、JR 西日本支社長による挨拶や関係者による記念撮影を実施したほか、地元を拠点に活動する音楽ユニット「H i K a R i」による音楽演奏や関係者による観光パンフレット・ノベルティの配布などを行い、式典を盛り上げました。

○そのほか、車内や沿線でのおもてなしを実施したほか、終点津和野駅では歓迎イベントを実施しました。

※やまぐち号は、2022年5月3日に発生した不具合以降、ディーゼル機関車がけん引するD L やまぐち号として運転していました。



運転開始45周年記念 S L やまぐち号出発式を実施

○令和6年8月1日（木）、1979年の運転開始からちょうど45周年となるこの日を記念して、新山口駅で出発式を実施しました。

○当日、これにあわせて作成した45周年特別ヘッドマークのお披露目をしたほか、地元小郡地区の岩戸ふしの太鼓保存会による和太鼓演奏を実施し、来場者を盛り上げました。

※特別ヘッドマークは、8月3日～8月12日の間の運行日限定で装着しました。



最新の情報は、公式HPからご確認ください！



S L やまぐち号

検索

団体名	愛媛県西条市 鉄道歴史パーク in SAIJO	〒793-0030 Tel : 0897-47-3855 Fax : 0897-53-6200 URL : https://s-trp.jp/ Email : tetsudobunka@saijo-city.jp 担当者：西条市観光振興課 能智 泰良
-----	----------------------------	--

愛媛県西条市のＪＲ伊予西条駅に隣接する鉄道歴史パーク in SAIJO は、新幹線の父・十河信二氏ゆかりの地に誕生した四国初の本格的な鉄道資料館「四国鉄道文化館（北館・南館）」と「十河信二記念館」、鉄道グッズや特産品を販売する「観光交流センター」からなる西条市の観光・交流エリアです。

十河氏の象徴とも言える０系新幹線電車をはじめ、ＤＦ５０形ディーゼル機関車１号機、Ｃ５７形蒸気機関車、キハ６５形急行用気動車、ＤＥ１０形ディーゼル機関車１号機、フリーゲージトレイン第２次試験車の計６両を展示しています。

1 伊予西条鉄道フェスタ２０２３

１２月２日と３日の２日間にかけて鉄道フェスタを開催。JR 四国の協力のもと、保線用車両や軌陸車の展示、冬の新幹線コンサート、H0 ゲージ鉄道模型走行会などの楽しい鉄道イベントを実施し、延べ、１，８１８人の来場者で賑わいました。



2 ミニ SL 乗車会

四国鉄道文化館南館には総延長２３５メートルのミニ SL 用軌道を敷設しており、乗車会を開催している。四国ミニ SL 倶楽部の協力のもと、月によって１～２台編成の規模縮小版の乗車会、５～１０台編成の乗車会を実施し、毎回大勢の家族連れで賑わっています。

3 アンパンマン列車模型展

夏休みを中心に、四国鉄道文化館北館において JR 四国が『アンパンマン列車模型展』を実施しました。実際に走っているアンパンマン特急やトロッコなど、１／２５の精巧な車両模型やその歴史を紹介したパネルが展示され、たくさんのチビッ子ファンで賑わいました。



4 ０系ぷらす

０系新幹線のお掃除会＆勉強会を３か月に１回実施しています。新幹線についてのお勉強をしたあと、客室や車体などのふき掃除、汽笛吹鳴、連結器出し入れ作業などが体験できる、チビッ子たちに好評のイベントです。

（他に、「Ｃ５７ぷらす」や「ＤＦ５０ぷらす」を行っています。）

5 軌道自転車体験乗車会

館内には、ＪＲ四国の伊予西条駅の構内からの、「引き込み線」があり、その一部を使い、軌道自転車（通称：レールスター）の体験乗車会を実施しています。保線作業や線路巡回などで使用されていた４人乗りのレールスターで、ガタゴトと線路の継ぎ目を感じながらの走行を体験できます。



団体名

宇高連絡船愛好會

〒 706-0011

Tel : 090-1337-7660

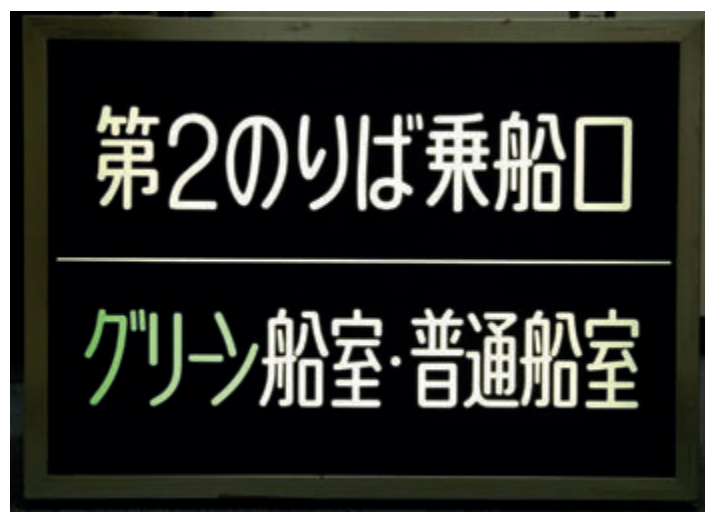
Fax :

URL : <https://ukourenrakusenaiko.wixsite.com>

Email : aikoukai@tamano.or.jp

担当者 : 三村 卓也

既に、保存すべき宇高連絡船は国外に売却されて第2の船生を歩んでいる為、役目を終えて解体される前に国内奪還する事を狙いながら関連資料の収集と研究、保存を継続。



宇高航路は手続き上、まだフェリーは4廃止ではなく、復活に向けての取り組みとして、船員不足解消への取り組みと海上安全法の見直し、海上国道の在り方についての説法巡回も継続中。

その合間で国鉄宇高連絡船のマイナー航路を検証航海する取り組みも継続。

今年はホーバークラフト（急行便）の初期航路を9月29日に実施予定。

来年は小型貨車航送船の航路を小型カーフェリーにて実施予定。

宇高連絡船としては勿論、鉄道連絡船というジャンルを風化させない為にもグッズ作成・販売もこれからは積極的に行う方針。先ずは廃線印から実施。（スタンプは国鉄型錨がモデル）

今後は鉄道連絡船を連想させるデザインの「何か」を製作予定。



団体名	九州旅客鉄道株式会社	〒812-8566 Tel : 092-474-2541 Fax : 092-474-3898 URL : https://www.jrkyushu.co.jp/ Email : a.nakayama@jrkyushu.co.jp 担当者：中山暁仁
-----	------------	--

《SL 人吉ラストイヤーの取り組み》

SL 人吉は運行開始から 100 年以上の年月を経て、2024 年 3 月に引退しました。

●SL 人吉の歴史

- ・1922 年 11 月 18 日 SL「58654 号機」誕生。
- ・1975 年 3 月 人吉機関区で役割を終えて矢岳駅に保存
- ・1988 年 8 月 28 日 「SL あそBOY」として豊肥本線運行開始（熊本～宮地）
- ・2005 年 8 月 28 日 「SL あそBOY」運行終了
- ・2009 年 4 月 25 日 「SL 人吉」として肥薩線で運行開始（熊本～人吉）
- ・2020 年 11 月 1 日～12 月 27 日 「SL 鬼滅の刃」として運行
- ・2021 年 5 月 令和 2 年 7 月豪雨の影響を受け、鹿児島本線で運行開始（熊本～鳥栖）
- ・2022 年 11 月 18 日 SL 誕生 100 歳の記念イベントを実施
- ・2023 年 11 月 18 日 SL 誕生 101 歳の記念イベントを実施
- ・2024 年 3 月 23 日 熊本⇄博多特別運行を最後に一般のお客さまにご乗車頂く運行が終了
- ・2024 年 3 月 24 日 熊本⇄八代で関係者招待運行、八代駅にて運行終了式典をもって「SL 人吉」として運行を終了

●SL の形式(一部当時)

形 式	8620 形式	車 号	58654
全 長	16.765 mm	馬 力	630 ps
高 さ	3.785 mm	最高速度	90 km/h
機関車重量	46.7t	使用蒸気圧	13.0 kg/cm ²
炭水車重量	26.5t	動輪直径	1,600 mm



●引退後のSL 人吉

- ・SL あそBOYとして復活するまで、58654 号機を長く保存して頂いていたことや、SL 人吉の運行を支えて頂いたこと。また、保存・展示のお申し出を頂いていることなどから、人吉市に譲渡することとした。



2024 年 3 月 23 日「SL 人吉」ラストラン記念出発式
博多～熊本 特別運行



2024 年 3 月 24 日「SL 人吉」関係者招待運行
熊本～八代 特別運行

北九州線車輛保存会

お問合せ

〒818-0003

福岡県筑紫野市大字山家4930-1

07041717738 代表 手嶋康人

teshi729@yahoo.co.jp

2024年活動報告



私達は元西鉄北九州線の保存を行う団体です。
現在北九州線621号、北方線324号、筑豊電鉄2002、福岡市内線507号、花電車を保有しています。

2024年活動内容



324号全塗装



2002号全塗装

保存車輛ヤード福岡活動報告2024年



検重車ケ10型15がやってきました。

ライブカメラ生放送開始！



24時間365日保存車両を眺めることができます♪



旧魚梁瀬森林鉄道施設 明神口橋

日本鉄道保存協会

〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目61番地 泰生ビル405号室

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 内

電話／FAX: 045-651-1730

URL <http://www.rpsj.jp/>

E-mail info@rpsj.jp

